

自治体名：青森県八戸市

＜様式１＞① 経路圖・経路表② 遊覧コース見解記入

巡回相談 ふりかえりシート

経路名称	記入人数	年	月
巡回内容 氏名	性別	年齢	学年
◎子どもへの様子や感想を			
◎考えられる工夫や手立て			

③ 巡回相談の振り返り記入シート

巡回内容	記入人数	年	月
◎子どもへの（巡回後の使用や活用、振り返りなど）			
◎実施した工夫や手立て			
◎今後の目標（巡回の内容、次の巡回などについて記入する巡回内容など）			

<幼児教育アドバイザー２名の専門性を生かした園への支援>

園からの要望内容に合わせて、２名の幼児教育アドバイザーが巡回相談やアドバイザー訪問に対応した。

うち１名のアドバイザーは、元小学校校長としての経験を生かして、幼・保・小接続の視点での助言等を行った。幼児教育アドバイザーを配置して４年目となり、巡回訪問等を実施した園とは関係性が構築されつつある。１０月には、施設長数名を対象としたアドバイザー派遣の依頼があり、「保護者との連携」等をテーマに講話を実施した。



もう１名のアドバイザーは、養成系大学教授としての専門的な見地からの助言等を行った。当市の園は全て私立であり、市教育委員会として、各園の教育・保育内容に直接関与することは難しい状況にあるが、園内の特別支援教育に係る体制づくりに関わる助言等について、園の受け止め方は良好であった。

<幼・保・こ・小接続の推進における合同研修会>

７月に合同研修会を開催し、幼稚園、認定こども園、保育所、小学校の保育者・教職員等、合わせて１３７名が参加した。

八戸学院大学短期大学部教授の差波直樹氏を招き、「学びがつながる子どもがつながる」と題した講演を行った。架け橋プログラムの意義や連携のフェーズ、連携を通して育つことについて話があり、幼・保・小の円滑な接続に向けた取組の在り方について共通理解を図った。



また、分科会では、各自が持参した写真をもとに、グループ内で互いの活動を紹介し合った。グループによっては、気になることを積極的に質問し合う様子も見られた。



参加者の事後アンケートには、「連携はお互いを知るところが第一歩だと思うので、交流できたことがとてもよかった」「これから架け橋プログラムを作成するので、それを活用しながら積極的に相談したり、やり取りをしたりしていきたい」など、幼・保・小連携に関する前向きな感想が多く見られた。幼児教育と小学校教育の相互理解を促進するとともに、教職員の資質向上を図る機会となった。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：宮城県気仙沼市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

市内には幼児教育施設が26施設（公立・私立幼稚園9園，保育所型認定こども園1園認可保育所他16施設）あり，全ての幼稚園で預かり保育をしている。本市では，平成28年から幼児教育推進室を設置している。今年度はコーディネーター2名（元所属長）とアドバイザー4名（元所属長及び元職員，現職）を配置し，幼児教育推進に向けた企画運営を行うなど，幼児教育施設の管理部署と連携しながら事業を行っている。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育推進連絡会及び保幼小連携・接続研修会の開催（年2回）
- ・ 保育・幼児教育施設職員研修会の実施（年3回）
- ・ 幼児教育アドバイザー等による幼児保育施設訪問（原則各施設1回以上）
- ・ 幼児教育推進室メンバーによる幼児教育先進地（宮城県白石市）への視察
- ・ 幼児教育推進室だよりの発行（年4回）
- ・ 幼児教育推進事業「実践の記録」の配布（年度末）

【取組内容の具体的な事例】

＜保幼小連携・接続研修会（年2回開催）の様子＞

- 内 容：保幼小連携・接続に係る講話，小学校区ごとの情報交換
- 参加者：市内全幼児教育施設及び全小学校の担当者
- 幼児教育の専門的な知識を有する大学の先生を講師に迎え，1回目は「架け橋期カリキュラムの効果的な活用と非認知能力を育む読書活動」，2回目は「幼児教育と小学校教育のつながりと幼児期におけるメディアの活用」というテーマで，自身の経験も交えながら講話いただいた。また，小学校区ごとの情報交換も行い，更なる連携・接続について確認し合うことができた。



＜保育・幼児教育施設職員研修会（年3回開催）の様子＞

- 内 容：保育参観及び話し合い（保育参観及び日常の保育の振り返り，その他）
- 参加者：市内幼児教育施設職員希望者（1回目9名，2回目20名，3回目16名）
- 市内にある全保育・幼児教育施設職員を対象とした研修会を市立保育所で2回，市立幼稚園で1回実施した。前半に保育を参観し，後半はグループに分かれて話し合いを行った。研修会後に，共有した保育の取組を自身や所属の保育に生かすなど，保育者の意欲の向上につながった。



＜幼児保育施設訪問（原則各施設１回以上）＞

- 内 容：保育参観，保育者及び施設長への助言（保育や施設ごとの課題について）
- 訪問者：本市幼児教育コーディネーター及びアドバイザー
- 令和６年度は，感染症の流行により中止になった１施設を除いた各施設を訪問し，保育参観を行って保育者に助言したり，事前にヒアリングしていた各施設の課題等に対する助言を施設長に行ったりした。施設の公開保育や研修会にも助言者として参加するなど，保育の質向上につながった。

＜幼児教育推進室だよりの発行（年４回）＞

- 内 容：各種研修会の概要及び研修会参加者の声，保幼小交流活動の様子など
- 配布先：市内全保育・幼児教育施設，市内全小学校
- 各施設及び小学校で回覧をしてもらうことで，研修会や施設訪問等の概要を研修会参加者以外の職員も知ることができるなど，情報共有に役立った。



＜幼児教育推進事業「実践の記録」の配布（年度末）＞

- 内 容：保幼小連携・接続研修会の講話資料，保育・幼児教育施設職員研修（保育参観）資料，幼児教育推進だより，幼児教育推進事業アンケート結果など
- 配布先：市内全保育・幼児教育施設，市内全小学校
- 各施設及び小学校に１冊ずつ配布し，各種研修会及び本市幼児教育推進事業の成果の更なる波及を図った。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 宮城県石巻市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

石巻市内には公立・私立幼稚園、保育所園、こども園が48施設あり、そのうち保育所が33所園を占めている。平成21年から、教育委員会が「幼保（こ）小合同研修会」を主催し、保育の質の向上に取り組んできた。幼児教育の更なる質の向上と小学校との滑らかな接続の推進を目指し、令和5年12月には「市幼児教育推進会議」を、令和6年4月には「市幼児教育センター」を設置し、幼児教育アドバイザーを配置した。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 市幼児教育センター（学校教育課内）の設置（幼児教育アドバイザー2名配置）
- ・ 幼児教育施設・小学校低学年の巡回訪問活動
- ・ 市幼児教育推進会議の開催（5月、3月）
- ・ 市幼保こ小合同研修会の開催（8月、11月）
- ・ 市幼児教育施設園長・所長等懇談会の開催（12月）

【取組内容の具体的な事例】

＜市幼児教育推進会議（5月、3月）の様子＞

第1回会議では、市として目指す幼児の姿、その姿を育むカリキュラムのイメージについて共有し、第2回会議では、令和6年度事業報告、令和7年度事業実施に向けての意見を聴取した。また、各種アンケートから把握した接続期カリキュラムの編成状況についても共有し、令和7年度の研修の方向性について意見を聴取した。

＜市幼保こ小合同研修会（8月、11月）の様子＞

第1回研修会では、宮城教育大学副学長 佐藤哲也先生から、幼保こ小連携について御講演いただいた。幼児教育施設と小学校でグループを構成し、「遊び」「学び」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についてグループワークで共有を図った。第2回合同研修会では、県幼児教育アドバイザー 山田元郎先生より、「幼保こ小の連携・接続の先を目指す学びの在り方」と題して御講演いただいた。グループワークでは、幼児教育施設と小学校のつながりを意識した幼児期の教育の重要性について共有を図った。



＜市幼児教育施設園長・所長等懇談会の様子＞

公私を問わない園長・所長等の連携を推進するため、12月17日に全48施設の長を対象とし、懇談会を開催した。小学校との接続の推進について話題が出され、学校訪問が更に展開されるなど、意識の高まりがみられている。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 福島県須賀川市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市は幼保小推進のため平成28年4月に「こども課」を学校担当部局のある教育委員会内に編入し、学校担当部局が設置した教育研修センターと連携しながら保育士・幼稚園教諭等の研修や幼保小連携に向けた体制を整えている。また、令和5年度より園長等経験のある幼児教育アドバイザーを配置し幼児教育の質向上の強化に取り組んでいる。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育アドバイザー施設訪問による指導助言の実施
- ・ 幼児教育に係る各種研修会の実施（園内研修等）
- ・ 専門職との効果的な連携と幼保小連携の研修

【取組内容の具体的な事例】

＜幼児教育アドバイザー施設訪問＞

令和6年度は9施設に対して27回、幼児教育アドバイザーの施設訪問を実施した。施設訪問では、現場における保育指導に関する課題等について現状を把握し、共に解決できるように指導助言を行った。また、施設の要望のもと保育参観や保育者との懇談を実施し、保育者の働き方改善に向けた課題等の把握をし、その改善策の提案をするなど施設に寄り添った支援を行うことができた。

＜園内研修＞

市内こども園の園内研修に幼児教育アドバイザーを派遣し指導助言を行った。一人一人の自主的な参加が必要な研修となっており、保育者間の積極的な意見交換と幼児教育アドバイザーによる指導助言を通して、保育に関する問題意識の向上に繋がった。



【園内研修の様子】

ワールド・カフェ方式を取り入れリラックスした中でも積極的な研修となった。また、研修内容に小学校の環境構成等についても含まれており、幼保小連携についても繋がる内容となっていた、

<保育教諭・保育士実践セミナー>

日頃から頑張っている保育教諭・保育士が、連絡帳の書き方や時季にあった教室掲示・環境構成、保護者対応、気になる子とその保護者への対応など、日頃の仕事上の悩みや困っている（いた）ことなどを参加者同士で気軽に話し合うとともに、指導主事やアドバイザー、参加者からのアドバイスや助言を得ることで、その後の保育活動の実践に生かせるように、ワールド・カフェ方式の研修を実施した。

各施設の保育者は比較的参加しやすいように、同じ内容を午前と午後に設定したが、合わせて 33 名の受講者があった。

今回初めての実施した研修であったが、少人数によるワールド・カフェ方式の話し合いだったので、受講者も比較的満足した研修会となった。



<須賀川市幼保小連携研修会の実施>

市内の幼保小すべての 38 施設から 41 名、幼保から副園長・主任、小学校から教頭・教務主任が集まり研修会を実施した。講義や分科会を通して、各施設における課題等について共有し積極的な意見交換ができていた。また、架け橋期における指導についても意欲的な話し合いが行われ、幼保小連携の重要性について理解を深めることできた。

【講義の様子】

元大学教授による「幼保小連携接続の意義と効果について」の講義



【分科会の様子】

各小学校区に分かれ、幼保小担当の積極的な意見交換が行われていた。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 茨城県牛久市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市の幼児教育施設は21園、そのうち教育委員会所管は公立幼稚園1園であり、他は保健福祉部保育課の管轄である。そこで、公立幼稚園を核として、茨城大学教育学部と連携しながら幼児教育センター事業を進め、公私や施設類型を問わず、幼児教育の質の向上や幼保小連携接続の充実、保育者と小学校教員の資質向上を目指し以下の取り組みを行った。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育担当アドバイザーと幼保小接続担当アドバイザーによる幼児教育施設訪問、幼保小接続担当アドバイザーによる学校訪問、保育者向け研修の企画運営
- ・ 幼児教育担当アドバイザーと幼保小接続担当アドバイザーによる学校区交流活動参観と協議（担当学年が抱く課題の把握と他学区の取り組み紹介）
- ・ 茨城大学教育学部との連携による幼児教育施設・小義務教育学校管理職対象の講演、保育者向け講演とワークショップ
- ・ 巡回相談員10名による巡回相談の実施
- ・ 8つの小学校区地区幼保小連携事業の実施（アフターコロナにおける交流の在り方）
- ・ 教育委員会と市保健福祉部との連携

【取組内容の具体的な事例】

＜3名の幼児教育アドバイザーによる幼児教育施設訪問と幼保小接続担当アドバイザーによる学校訪問の実施＞

令和6年度より、教育委員会に幼児教育アドバイザーとして幼保小接続担当アドバイザー1名と幼児教育担当アドバイザー2名を任用し、研修の一元化、幼児教育施設の定期的訪問による幼児の見取り、保育の質の向上に向けた懇談（園長・主任・担任）、公開保育（参観・協議）を通して保育の質の向上を目指した。

研修として、4・5歳児担当者研修（以下4・5歳研）を5回実施し、一斉指導型保育から「遊び」を通しての学び、幼児主体の保育に関する動画視聴、意見交換、講演やワークショップを企画運営した。毎回20人程が参加し、活発に情報交換を行った。

幼保小接続担当アドバイザーは、月1度（通年で59回）の小学校訪問、低学年の授業参観、授業に関する情報提供、幼児教育との接続を意識した授業づくり等について協議した。協議は放課後に学校で実施とweb会議システムを活用した実施を試行し、教職員の負担減を考慮した。併せてタブレット活用事例等にも触れ、現在の学校が目指す授業の姿やICTの効果的活用の具体化も協議できた。

さらに、計画訪問時には低学年部会の設定を依頼、授業に関する協議と文部科学省動

画「遊びは学び 学びは遊び やってみたいが学びの芽」を協議の中で視聴し、求められている架け橋期の取り組みに関して情報共有を図った。

これらの情報を4・5歳研で保育者にも適宜伝達し、一斉指導型授業という授業イメージの刷新に努めた。

<茨城大学教育学部との連携による研修の実施>

幼児教育施設・小・義務教育学校の管理職・保育者・教員向けに、研修を企画し、実施した。研修テーマ及び講師は以下のとおりである。

- 第2回合同連絡会（管理職対象） 講演 茨城大学 新井 英靖教授

「個別最適化された学び」と「協働的な学び」-令和の日本型学校教育への転換-

- 第4回4・5歳児担当者研修（保育者対象） 講演 茨城大学 石田 修講師

「遊びを通して学ぶ」-先の見えない時代で求められる力とは-

- 第5回4・5歳児担当者研修（保育者対象） 茨城大学 石田 修講師

ワークショップ 「遊びを通して学ぶ」 各園での「遊び込んだ」姿と遊具の紹介等

- ケースカンファレンス

希望園に新井先生、石田先生、大学院生が訪問し、気になる幼児への対応に関して、見取りとケース会議を実施した。保育者の研修の場の一つとなっている。

<巡回相談員による巡回相談の実施>

10名の専門家に巡回相談員を委嘱・任命、幼児教育施設対象の巡回相談を各園5回ずつ実施した。相談員は幼児教育施設で幼児の様子を見取り、保育者や保護者の個別相談と専門的な見地からの助言を行った。気になる幼児に対して、保育者のアプローチの工夫、保護者の子育ての中での困り感の軽減等、継続的な支援に成果が見られる。本年度は年間104回の巡回相談を実施し、小学校への円滑な就学相談に結びつけることができた。気になる幼児は増加傾向にあり、相談員同士の情報交換やケース会議への要望も出されている。

<地区幼保小連携事業の実施>

8校の市立小・義務教育学校で学校区のグループを編成、地区幼保小連絡会として公開保育、授業参観、幼児と児童の交流等の活動の計画・実施を依頼した。コロナ禍前に戻したいという考えもあったが、アフターコロナの教育活動に合わせた交流活動への工夫も見られた。学校区による差への対応は課題である。

本年度は、学校区での交流活動の参観をできるだけアドバイザー3名で参観し、放課後に情報交換を行った。3学校区で実施でき、学校側の工夫や多くの学年との交流機会の設定等「これまでどおり」ではない取り組みを模索する様子が捉えられた。

<市保健福祉部との連携>

7年度に向け、架け橋カリキュラム作成に関する会議を計画している。幼児教育施設や学校の負担増とならないように4・5歳研の一部を活用し「カリキュラム作成会議」を保育者と学校教職員が共に協議できる場を設ける方向で進めている。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 茨城県鹿嶋市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

- ・ 幼児教育にこれまで携わり、知識や経験が豊富な人材を「幼児教育アドバイザー」として配置している。
- ・ 公私立問わず、幼稚園教諭や保育教諭、保育士等への相談支援、現場で抱えている課題解決に向けて指導・助言する役割を担っている。
- ・ 市独自に架け橋期カリキュラムを作成し、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校が連携を深めていくことを推進している。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 市内幼児教育施設への訪問
- ・ 園長会・学校長会等での事業説明と研修
- ・ 保幼小接続の検討
- ・ 各種研修会の開催、参加
- ・ 教育相談

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保の連携＞

公立幼稚園で市内の幼保小施設関係者を対象（※希望者）に交流事業を実施した。現場の職員だけでなく、幼児教育アドバイザーや教育委員会行政担当職員も参加することで互いの実情を把握し、幼保小連携の質向上に関する相談・支援等の場が確保された。

＜公立保幼教職員研修・公立保幼初任者研修＞

外部講師を招き、「幼児教育指導法」などをテーマに職員研修を実施した。また、初任者には幼児教育アドバイザー等が講師となり市内研修を実施した。外部研修に参加することができない職員も現場経験が豊富な職員から指導や支援を受けることで、スキルアップを図ることができた。



＜幼保小接続の検討＞

保幼小接続推進委員会を実施し、幼保小接続などに関する意見交換や中学校区ごとに架け橋期プログラムの作成を行った。

教育内容の接続や学びの連続性などの理解を深めるため、意見交換を行い、幼児教育施設職員と学校職員で共通理解、情報共有を図ることができた。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：埼玉県さいたま市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

さいたま市では、令和2年3月に「さいたま市幼児教育の指針」を策定し、「あそびで育つ 輝くさいたまの子」の具現化を目指して、子どもの育ちに係る質の向上に努めている。本市の特色として、市内に約750の就学前施設がある。そのため、幅広く就学前施設の要望に応じることができるよう、幼児教育アドバイザー派遣事業の充実を図ってきた。また、施設類型を越えた保育者の資質向上につながるよう、公開保育研究事業や保育者資質向上研修会の実施及び工夫改善をしてきた。さらに、さいたま市幼保小架け橋プログラムの推進に向けて、教育委員会との連携体制を一層強化している。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・幼児教育アドバイザーの派遣事業の見直し（活用形態の工夫、活用機会の拡充等）
- ・「さいたま市幼保小架け橋プログラム」に沿った幼保小連携事例の発信、収集。
- ・「架け橋期のカリキュラム」作成支援（モデルカリキュラムの提示等）。
- ・市内全ての区において公開保育研修会を実施することで、市内全域での幼児教育・保育の質の向上及び幼保小連携の推進を図った。
- ・保育者資質向上研修により、市内約750の就学前施設に在籍する保育者の施設類型を越えた交流の活性化、資質向上に努めた。

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保小連携教育研修会の様子＞

教育委員会と子育て未来部との共催で実施した研修会には、市内公立小学校教員101名と市内保育者が122名参加した。幼保小連携を図りたい小学校と小グループでの協議、意見交換が可能なように保育者を配置した。6月に開催したため、今年度の幼保小連携について具体的な話し合いができた。



6月開催「幼保小連携教育研修会」の協議の様子

＜公開保育研修会の様子＞

公開保育研修会は、市内全ての区（10区）において計12園が実施した。園内研修の成果を確認するとともに、近隣の施設から保育者及び小学校教員、区役所の保育コーディネーターが集い、当日の保育だけでなく幼保小連携についても意見交換・協議することができた。また、参会した副園長と小学校の教頭とが顔の見える関係となり、その後



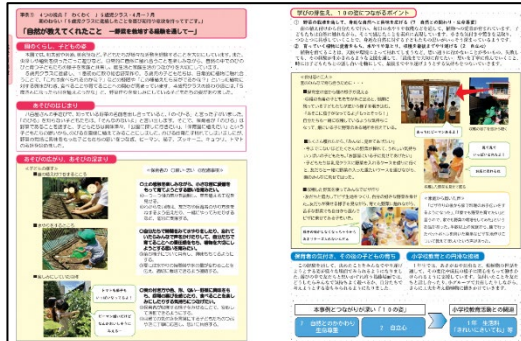
8月実施「公開保育研修会」の意見交換の様子

の連携を強化する契機となったことが確認できた。

＜「さいたま市幼児教育・保育実践事例集（第4集）」の発行＞

さいたま市幼保小架け橋プログラムに基づき「架け橋期のカリキュラム」の作成を支援するため、昨年度末にモデルカリキュラムを提示した。モデルカリキュラムを参考に園独自で作成したカリキュラムと保育実践を併せて事例集に掲載した。その中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と実践で伝えられた子どもの姿との関連を明確にすることで、小学校以降の教育を見通すことや「環境を通して行う教育」について相互理解が深まるように編集した。

さらに、冊子内容の一部をHPに掲載することで、より多くの保育者や小学校教員が自身の保育・幼児教育、学習指導等を振り返り、工夫改善が図れるように発信することにした。



「さいたま市幼児教育・保育実践事例集（第4集）」8～11pより

＜幼児教育アドバイザー派遣事業の様子＞

本年度は、派遣内容を見直すことで、派遣回数が増えるようにした。発達の偏り等のある子どもに対する保育者の関わり、クラス運営について派遣ができるようにしたため、全体の派遣回数が増加した。当日は、保育観察後のカンファレンスを通して、派遣されたアドバイザーとともに保育者自身が子どもへの関わり方を考え、よりよい保育・幼児教育に気が付き、次の日からの実践意欲が高められるように保育者支援、園の体制支援について助言できるようにした。派遣後の感想用紙からは、「よりよい関わり方に気付くことができた」等の感想が確認できた。



担任以外の保育者と一緒に語り合うカンファレンスの様子

＜保育者資質向上（新人保育者育成支援）研修の様子＞

ミドルリーダーを対象とした研修会の実施後の感想からは、「相談されたとき自分の考えをすぐに伝えて解決策を考えてしまいがちだった」等、自身の新人保育者への関わり方をよく振り返ったものが多く確認できた。



新人保育者育成支援の研修会の開催の様子

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 埼玉県草加市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

草加市においては、幼稚園・保育所・認定こども園・小学校・中学校が連携しながら、生きる力を一貫して育てる「幼保小中を一貫した教育」を行っている。これまでの取組により、子どもたちの生きる力が着実に育まれ、幼保小の円滑な接続も実現されてきている。課題として、公立園に比べ私立園に対する支援が十分に実施できていないことがあるため、市内の全ての園に十分な支援が実施できるよう、取り組む必要がある。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育アドバイザー等による訪問支援
- ・ 保育見学会の開催
- ・ 架け橋期のカリキュラムの編成と実施についての研修会の開催
- ・ 草加市子ども教育連絡協議会の開催
- ・ アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの編成及び実施に関する支援

【取組内容の具体的な事例】

＜訪問支援＞

市内の保育園及び幼稚園にのべ49回訪問した。園内での保育の様子を見学したのち、園長や担任の方を交えて懇談会を実施している。懇談中は、保育の振り返りや保育・教育についての情報提供のほか、訪問園からの相談を受け付けた。

訪問支援後のアンケートでは、「第三者視点での意見をいただくことができて新鮮だった」「日々の保育を振り返る良い機会だった」「自分の保育に自信が持てるようになった」等の肯定的な意見を伺うことができた。

＜保育見学会＞

市内の幼稚園・認可保育園・認定こども園及び小中学校等を対象に、市立保育園の保育を参観して協議する保育見学会を実施した。主に5歳児のクラスの自由遊びを見学し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の視点をもとに、遊びを通した子どもの育ちや環境設定の工夫を見取ったほか、見学会後は中学校区ごとに園・学校等が協議を行い、幼保小中間で幼児期の子どもの育ちを共有し、生かしていくことについて理解を深めた。

＜幼保等及び小学校職員向け研修会＞

國學院大學人間開発学部 教授 吉永 安里氏を講師として招き、「～子どもの「やってみよう！」をつなぐ架け橋期のカリキュラムとマネジメント～」と題して、幼保小及びの職員を対象としてご講演いただき、幼保小の円滑な接続への理解を深めることができた。また、講演後は、中学校区ごとに、幼保小の連携について講演を受けて活発に

意見交換をすることができ、連携を一層深めることができた。

＜草加市子ども教育連絡協議会の開催＞

年度の初めに市内の幼保小中が中学校区ごとに集まり、目指す子ども像や幼保小中間の連携事業の確認・情報交換を行った。年度の終わりには、市内幼保小中の団体が一同に会する全体会を開催し、接続期の引き継ぎを内容とした講演会及び中学校区別協議を行った。

中学校区別協議では、各校・各園に年間行事計画を用意してもらい、それをもとに連携事業の日程等を決めたことで、異校(園)種間で計画的に連携を進めることができた。また、各校(園)の情報交換を行ったことで、異校(園)種への理解促進につながった。

＜アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの編成・取組への支援＞

幼保においては、訪問支援の際にアプローチカリキュラムの編成や就学に向けての取組について適宜情報提供を行った。小学校においては、スタートカリキュラムの実施状況を把握するため1学期に小学校1学年の授業を参観し、具体的な助言を行った。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：東京都世田谷区

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

乳幼児教育支援センターでは、人材育成支援として各種研修や専門人材の派遣などを実施しているが、区立と比較すると私立園の参加率が低いことが課題である。ただし、各園における運営方針・体制や私立幼稚園独自の研修システム等が機能していること等、私立における実態も確認しながら、区として可能な実施方法を工夫しながら、アプローチを続けていく必要がある。また、幼保小の連携として、区独自制度の「学び舎」を活用した架け橋期のカリキュラムを検討しており、モデル研究や検討部会において幼保小の職員同士の交流が促進され、相互理解が深まっている。

保育関係者連絡会における意見等を参考に、乳幼児教育支援センターの取組が実践の場に役立つものとなるよう取り組んでいく。

【令和6年度における主な取組内容】

令和6年度は、世田谷区乳幼児教育支援センター発足から3年目を迎え、各取組について、内容の拡充や実施方法の改善などを図ってきた。その結果として、研修や専門人材派遣、学び舎等の事業については私立園の参加も徐々に増え、公・私、幼・保・小など多角的な面での交流が進みつつあり、区全体の教育・保育の質の向上に資することができた。また、各種アドバイザーの派遣によるスポット的な支援についても継続していく。

【取組内容の具体的な事例】

＜乳幼児教育アドバイザーの派遣の様子＞

区立幼稚園1園、区立保育所3園に、乳幼児教育アドバイザーを計11回派遣し、幼保小の連携に関することや世田谷区の特色を活かした乳幼児期における教育・保育の進に向けた助言・指導等を行った。また、園・施設への訪問時に、教育・保育の取組の見学した感想を参加者全員で共有した。その感想の一部抜粋は別紙資料1のとおり。

＜世田谷版アプローチ・スタートカリキュラム改訂委員会の様子＞

区内の公私立幼稚園・保育施設の園長や教育委員会事務局・区長部局の管理職等で構成される改訂委員会を開催し、架け橋期の取組みについてのモデル研究の発表や、世田谷版架け橋期カリキュラム(仮)の構成案を検討した。資料について別紙2のとおり。

＜乳幼児教育支援センター研修の様子＞

区内の各教育・保育施設を対象に人権、保育実践、危機管理安全対策等のテーマをもとに全32の研修を実施。各研修では、その分野の専門家(大学教授等)を招き、日々の

教育・保育実践に即した研修を展開した。また、各施設が参加しやすくなるよう実施時間・方法・テーマなどの工夫を行っている。実施した研修の一覧は別紙資料 3 のとおり。

＜学び舎連携活動に係る支援の様子＞

各学び舎において、主に幼保小の連携がより円滑かつ活発になるよう、モデル研究の支援や研究成果の公表・共有等を通じた支援を実施している。具体的取組として、学び舎を活用した架け橋期における取組をより円滑かつ効果的なものとするため、学び舎・連携活動アドバイザー（学識経験者）をモデル園の学び舎に派遣し、助言、指導等を行っている。令和 6 年度は、アドバイザーを 2 学び舎に計 3 回派遣し、幼稚園 2 園、保育所 1 施設、小学校 2 校を訪問し、助言、指導等を行った。モデル研究の中間報告書（1 学び舎分）別紙 4 のとおり。

＜世田谷区乳幼児教育・保育関係者連絡会の様子＞

乳幼児教育支援センターの事業が実態に即したものとなるよう、区内の教育・保育施設関係者・区管理職を集め、乳幼児教育支援センター事業の報告と今後の方向性を報告し、各方面より意見をいただいている。本連絡会の資料は別紙 5 とおり。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 東京都八王子市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本来、子どもの主体的な遊びをとおした学びを基盤として、保育は組み立てられていくものであるが、現状は、保育者主導の一斉活動が主活動として位置づけられており、子どもが能動的に遊ぶ環境に乏しい。アドバイザーによる訪問支援や研修会を開催し、子ども自身が環境に関わり、興味関心を広げ、資質能力が育まれていくことを伝え、更なる質の向上に努める。

【令和6年度における主な取組内容】

- 1 教育部局との連携強化と保・幼・小連携の推進
- 2 各種研修会の開催
- 3 幼児教育・保育アドバイザーによる訪問支援
- 4 八王子市幼児教育・保育施設における子どもの安全・安心月間
- 5 公開保育の開催

【取組内容の具体的な事例】

1-1 「子ども家庭部・学校教育部との連携強化」

これまで、「保・幼・小連携の日」において、各小学校を起点に幼児教育・保育施設職員との意見交換を行ってきたが、架け橋期のカリキュラム作成を見据え、スタートカリキュラムの協働作成等について検討した。

1-2 「保・幼・小子育て連絡協議会ブロック会議」

市域を5ブロックに区分けし、幼児教育・保育施設、小学校、学童保育所、その他関連施設職員により、接続期の課題や連携の在りよう等について、グループディスカッションを行った。



2-1 「八王子市保・幼・小子育て連絡協議会講演会」



白梅学園大学名誉教授：無藤隆氏に登壇いただき、「幼児教育と小学校教育をつなぐ架け橋カリキュラムの実践に向けて」をテーマに講演いただいた。

2-2 「すくてくシート研修会」

園から小学校へ子どもの育ちをつなげるための本市独自のすくてく支援シートについて、園・小学校からの話題提供の後に、グループワークによって、その活用方法や保護者との関係づくり等について認識を深めた。



2-3 「心肺蘇生法研修」

より実践に役立つよう乳児型のダミーを使用し、日本 BLS 協会スタッフによる心肺蘇生法の実技指導を行った。また後段では、医師によって誤嚥に関する身体的メカニズムの理解、予防に関する講義を行った。

2-4 「職種・世代別研修」

よりきめ細かく保育者のニーズに合う研修内容を提供するため、主に幼児教育・保育アドバイザーを講師にグループワークを織り交ぜながら、個別課題に沿った研修を計6回開催した。



2-5 「ハッチネットセミナー」

発達障害のある子の理解と援助方法の取得のため、保育者の他、児童発達支援事業・病院・学校・行政等職員を対象に、医師や心理士、各種療法師に御登壇いただき、講義、グループワークを織り交ぜたセミナーを年4回開催した。

2-6 「保育従事者研修」

認可外保育施設を含む幼児教育・保育施設職員を対象に、保育理論や子どもの発達、歌あそびの実技等、実行委員会にて内容を検討し年3回開催した。



3 「幼児教育・保育アドバイザーによる訪問支援」

市内幼児教育・保育施設を対象に、幼児教育・保育アドバイザーによる「訪問支援」を実施した。午前には幼児教育・保育を観察し、午後の時間帯においてカンファレンスを行い、幼児教育・保育の内容について助言を行った。

4 「八王子市幼児教育・保育施設における子どもの安全・安心月間の実施」

本市では、夏休み明けの新たな学期の始まりである9月を「八王子市幼児教育・保育施設における子どもの安全・安心月間」として位置づけている。園生活全般・保育環境・防犯等において、年度ごとに重点テーマを定め、点検や本市策定の安全・安心マニュアル等を用いた園内研修を実施するよう幼児教育・保育施設に要請し、その結果報告を求めた。また、NPO 法人 Safe Kids Japan 理事長で医師の山中龍宏氏に登壇いただき「子どもの誤嚥・窒息を減らすには」をテーマに講演いただいた。



5 「公開保育の開催」

昨年度、市内幼児教育・保育施設職員を対象に、公立保育園3園における保育を公開し、新たな保育に対する考えや、実践方法を取り入れる機会を設けた。今年度については、民間園を含む8園(述べ11回)において公開保育を開催し、約55名の参加があった。保育観察の後にカンファレンスを行い、保育の振り返り、子どもとの応答的な関わり、子どもの主体的遊びを保障するための環境構成等についてディスカッションし、幼児教育・保育アドバイザーより講評を行った。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 東京都日野市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

日野市の小学校、幼稚園、保育園の連携は歴史が長く、平成22年には当時の幼小連携の枠組みに保育園が加わる形で幼保小連携教育推進委員会が立ち上がり、市内の教員や保育士が授業観察や協議を通して、市立小学校のスタートカリキュラムの実態及び各園各校の実践について共通理解を図り、架け橋期教育の充実を図ってきた。令和5年4月に幼児教育・保育連携推進プロジェクトチーム（以下、「PT」という）を立ち上げ、現在2名の幼児教育・保育アドバイザーを配置し、幼保小の巡回支援、研修、情報発信等を行っている。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ アドバイザーによる巡回支援（全小学校、公立の幼稚園及び保育園、私立の幼保については園数が多いため一部を巡回。架け橋期の学びに関する参観や指導、幼保小の交流の促進、幼保の保護者会で就学についての講演、など。）
- ・ PTによる取組（公民幼保合同の研修会の開催。幼保小接続リーフレットの発行。アドバイザーの巡回支援のバックアップ。在り方検討委員会からの方策に関する検討など。）

【取組内容の具体的な事例】

＜①幼保小連携教育推進委員会＞

- ・ 幼保小の先生が、幼保小連携の基本的な考え方、抱える実践上での課題やニーズについて共通理解し、園及び小学校の取組の改善につなげる本取組。
- ・ 令和6年度は、年度初めと終わりの全体会、小学校及び幼稚園参観は市内をこれまでの4つ⇒8つのグループに細分化し、グループ間の交流や会の中での意見交換の活発化も図った。外部講師を招いての研修も交えながら実施している。

＜②幼児教育・保育アドバイザーの巡回支援＞

- ・ 令和6年4月に公立幼稚園長経験者を1名追加配置。合計2名のアドバイザー体制となった。
- ・ 幼保小を巡回しながら、アドバイザーの実体験をもとに接続に関する助言、課題の聞き取りなどを実施。また、幼稚園や保育園の運動会や発表会の行事日程を集約し、各小学校に共有し、参観を促すなど、園小間の交流促進を図ってきた。



②アドバイザーによる私立幼稚園での講演の様子

- ・ 今年度は新たに、新一年生保護者会で各校が配布する「入学のしおり」の表記について情報収集を行い、幼児教育との連携の観点から表記に関する助言等を実施。
①に記載の委員会の中でも研修テーマとして取り上げ、しおりの改訂を通じて各小
学校の意識改革を図った。
- ・ 就学を控える5歳児保護者に対して取り組んできた、保護者会を巡回して実施する入学に向けた心構えなどの講演について、時期を前倒して通年で実施。

＜③公民幼保合同研修会＞

- ・ PT主催による、市全体の幼児教育・保育の質の向上を目的とした、公立私立問わず市内の幼稚園及び保育園を対象とした研修会を令和6年10月に開催。
- ・ 玉川大学、大豆生田啓友教授に「子ども・保育者・保護者がワクワクする保育へ」をテーマに、保育事例や最新の国での議論の内容等の紹介を交えながらご講演いただき、事後アンケートでは出席者の9割以上の方から「大変参考になった」との高評価をいただいている。



③公民幼保合同研修会。玉川大学大豆生田教授の講演

＜④幼保小連携パンフレット＞

- ・ 日野市幼児教育・保育の在り方検討委員会の検討結果を受け作成。
- ・ このパンフレットでは、幼児期の経験が小学校の生活や学習につながっていくことを、事例などを交えて紹介しており、幼稚園、保育園、認定こども園、小学校の職員だけでなく、保護者へも理解を促す内容となっている。
- ・ パンフレットに載せきれなかった内容や、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）の事例なども日野市ホームページと連動しながら情報発信している。



④幼保小連携パンフレット。日野市HPでも公開中

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 東京都国立市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

国立市幼児教育センターは、元・保育者養成大学の教員をセンター長とし、乳幼児から高齢者までが日常的に訪れる多世代交流施設の中に設置されている。市が設立した社会福祉法人が、市の子ども家庭部・教育委員会と緊密に連携しつつ、現場の改善につながる往還型研修等の実施・巡回相談支援・幼保小連携体制の充実に加え、保護者・市民・学生が保育者・教員と共に発達支援について学び合う講座等を開催し、まちぐるみで幼児教育を推進する体制を構築する取組を行っている。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育アドバイザーが市内の全就学前教育施設を巡回訪問し、園から挙げられた課題等をもとに市内就学前施設職員対象の研修のコーディネートや、個別相談に応じ、園の課題解決の過程を実践研究的に支援した。
- ・ 幼保小連携における研究協力地区としての指定期間は令和5年度で終了したが、継続して幼保小の専門職で学びあう往還型研修を実施した。

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保小連携推進事業の様子＞

市子ども家庭部及び市教育委員会と連携し、全3回の幼保小連携推進研修を実施した。

各自チャレンジテーマを設定し、実践した内容を持ち寄り学び合う「往還型研修」を行い、最終発表の際には園長や校長にも参加していただき、市全体として幼保小連携推進に取り組んでいる。



＜幼児教育アドバイザーの巡回訪問の様子＞

幼児教育アドバイザーが、市内の就学前教育施設32園全園の巡回訪問を実施し、保育環境のアドバイス等を行った。

巡回する中で各園から挙げられた研修要望については、令和7年度に幼児教育センターで実施する研修内容にも反映している。



＜専門職と市民が語り合う場の様子＞

多摩保育研究会と共催で「国立みんなの大学」として専門職と市民が語り合う場を設けた。



実践者による事例発表と、それを踏まえた質疑応答やディスカッションを行い、専門職と市民が立場の違いを超えて保育や教育について語り合い、考え合う機会を創出した。

<リーダーゼミの様子>

就学前教育施設の施設長等、リーダー層向けの研修として「リーダーゼミ」を実施し、リーダー的立場だからこそその悩みや課題を話し合った。

また、多くの参加者が課題として挙げた「子どもたちの声を聴きながら保育を進めること」や「保護者との連携」について、先進的な取り組みを行っている他自治体の園を幼児教育アドバイザーとともに見学し、自園への活かし方を検討した。



<発達サポーター養成講座の様子>

子どもの発達について市全体で理解を深めることができるよう、就学前教育施設の職員と市民が一緒に受講する発達サポーター養成講座を開催した。

受講者からは「立場が違う人が受講していることも刺激になった」「子育てが楽しみになった」などの感想が挙げられた。

受講後も交流会やチャットで交流を継続しており、自身の子どもに関する相談や支援員としての活躍の場等、情報交換の場となっている。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 神奈川県秦野市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

今年度は、公私・園種・校種の枠を超えた園校すべてを対象とした園小の接続強化、及び乳幼児教育・保育の質の向上等を目的に「乳幼児教育センター」を設置した。幼児教育の推進体制としては、域内全ての園校を対象とした園小架け橋期カリキュラムの普及促進、教育・保育の質の向上に向けた人材育成・研修、架け橋期のインクルーシブ教育の推進（就学相談）に関することに取り組んでいる。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 園小接続の「架け橋期のカリキュラム」モデル地区による実践研究
- ・ 「育ちと学びをつなぐ架け橋期のカリキュラム手引書」策定
- ・ 公私立園から小学校への円滑な接続のための就学相談の実施
- ・ 「はだのっ子育ちと学びの架け橋会議」の実施
- ・ 教育・保育の質向上のための公私立園合同研修会の実施

【取組内容の具体的な事例】

＜架け橋期のカリキュラム実践研究の様子＞

1つの小学校区をモデル地区とし、小学校と公私立園3園において教育・保育を理解し小学校への円滑な接続をめざすために実践研究を行った。実践における交流活動では実施の前後に教師同士で子どもの実態、教師の支援のポイント等について話し合いを重ねてきた。交流をとおして5歳児は学校の雰囲気を感じ取るとともに、1年生は5歳児を思いやる姿が見られた。



＜「育ちと学びをつなぐ架け橋期のカリキュラム手引書」について＞

令和3・4年に策定した「園小接続カリキュラム」に関する研究成果をもとに、今年度は発達心理学を専門とする有識者の指導により5歳児から1年生の2年間の架け橋期における「非認知能力」の育ちを視点とした教育の在り方に焦点を当て、公私立園や小学校の教員の参考資料として「育ちと学びをつなぐ架け橋期のカリキュラム手引書」を策定した。令和7年度から各地区において子どもたちの健やかな成長を切れ目なく支えるために活用していく。



＜公私立園の小学校への円滑な接続のため就学相談の実施＞

就学相談では、公私立園の保護者と面談を行い、子ども一人一人の状況や、教育的ニーズを適切に把握し、保護者と一緒に子どもの就学について考えながら支援を行ってきた。園小をつなぐ就学相談を行うことにより保護者の安心感につながっている。

<はだのっ子育てと学びの架け橋会議>

【開催日程】

今年度は園小中接続をさらに進めていくため、公私・園種・校種の枠を超えた「はだのっ子育てと学びをつなぐ架け橋会議」を8月と2月に実施した。

1回目 8月19日 テーマ「民間園との連携強化について」意見交換 参加者87名

2回目 2月20日 各中学校区別に意見交換 参加者：106名

○小中学校管理職と民間園長等

テーマ「8月の架け橋会議後の小中学校との連携状況」

「次年度に向けての課題等」

○小・中学校インクルーシブ・人権担当教諭と公立幼稚園・こども園副園長

テーマ「民間園との連携強化の具体策について」



交流・連携等の具体的な実践内容や課題等の情報交換を中学校区ごとに実施し、指導主事のファシリテートにより進行した。また、民間園との連携強化について意見交換を行うことにより、民間園との連携を図るための具体的な策などについて理解をすることができた。このような会議を開催することで、園校の連携を推進している。

<教育・保育の質向上のための公私立園合同研修会の実施>

1回目 11月21日 講演会 鶴見大学短期大学部保育科 教授 天野珠路氏
テーマ「豊かな乳児保育の実践～応答的な関わりと援助～」

乳児保育に関する質の向上に向けて、人格形成の重要な時期である乳児との関わりについて研修を実施した。

参加者：36名（公私立園）



2回目 3月4日 講演会 鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授 田中みか氏
テーマ「インクルーシブな園・学校づくり」

多様化する子どもたちが共に育ち合うための、園小に関するインクルーシブ教育にかかる基本的な知識や方法について、理解を深め指導力の向上を図った。

参加者：36名（公私立園・公立小学校）

公私立園・小学校が共有できる研修は、園小を円滑に接続し教育・保育において共通理解を図るためにも大きな効果が見込まれるため、今後も公私立園・小合同による人材育成に取り組み、教育・保育の質の向上へとつなげていく。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：新潟県聖籠町

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

当町では、令和4年度から新しい子育てシステムに移行し、3～5歳児を受け入れていた町立幼稚園3園が1園に、0～2歳児を受け入れていた私立保育園4園が0～5歳児までを受け入れる認定こども園となった。さらに、令和7年4月には新たに保育園が1園開園する。そこで、町内すべての園に対して等しく質の高い幼児教育を継続的に提供できるように、研修や支援を強化している。また、これまでの学区ごとの1園1小から、複数園・小の接続に変わったため、新たな接続体制の構築に努めてきた。

【令和6年度における主な取組内容】

- 幼児教育アドバイザーによる町立・私立全園への訪問研修・支援の積極的実施。園訪問研修（106回）・園訪問（61回）・全園を繋ぐオンライン研修会（6回）の実施。
- 指導者を招いた町立・私立園合同研修会開催（6回）、園・小学校・中学校合同の5歳児研究保育協議会の開催（1回）。
- 保育者の指導力向上に向けた「聖籠町発達支援集」の作成と全園教諭への配付。
- 「聖籠町架け橋期カリキュラム」を各園・小学校で自園・自校化。関係者協議会における園長・小学校長が架け橋期カリキュラムの推進に向けた話し合い（2回）。
- 連絡協議会（3回）・関係者協議会（5回）・有識者会議（1回）の開催。
- 聖籠町の幼児教育について、町の広報やホームページ、会議において積極的に発信。

【取組内容の具体的な事例】

＜幼児教育アドバイザーによるタブレットを活用した園訪問研修と、オンライン研修会の実施＞

【タブレットを活用した園訪問研修】

- ・ アドバイザーが、町立幼稚園1園と私立認定こども園4園に対し、毎月各園1回以上訪問研修を実施した（年106回）。午前中に0～5歳児の保育を動画撮影し、午後に動画をもとに1時間ほど話し合いと指導・助言を行い、指導力の向上に繋げることができた。指導時間を取れない園には指導のポイントを紙面にまとめ、園に送って活用してもらった。



※午後の話し合いと指導

【町立・私立全園をつなぐオンライン研修の実施（年6回）】

- ・ 園によってなかなか研修会場に足を運ばない実態を考慮し、多くの園教諭が参加できるように全園を繋ぐ学年別オンライン研修会を実施した。テーマに沿って同学年担任で保育のアイデアや悩みを共有することができ、横のつながりも深めること



※アドバイザーが進行と指導

＜指導者を招いた合同研修会の実施＞

【町立・私立園教諭合同研修会の開催】

- ・ 「管理職研修会」「3・4歳児研究保育協議会」「指導力向上研修会」「絵画指導研修会（実践編・応用編）」を開催し、研修意欲や指導力を高めることができた。（参加教諭100名）。また、指導力向上研修会では、「今、架け橋期カリキュラムに求められてい

ること」をテーマに、架け橋プログラムについて理解し、グループごとに架け橋期カリキュラムの作成を行った。参加した園教諭からは、今後、園と小学校で互いのカリキュラムを持ち寄り、教育内容や学びの連続性について語り合う会をもちたいという感想が聞かれた。

【園・小・中学校教諭合同の5歳児研究保育協議会の開催】

- ・ 架け橋プログラムの推進に向けて、園・小・中学校教諭合同の5歳児研究保育協議会を開催した。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を視点に、子どもの学びや教師の援助・環境構成、小学校へのつながりについて協議した。今年度初めて参加した中学校教諭からは、「町の12年カリキュラムに基づき、幼小中の全教職員がゴールの姿を共有しながら、子どもの発達や学びの連続性をもっと意識していきたい」という感想が聞かれた。（参加教諭25名）



※幼・小・中学校教諭で協議

＜保育の指導力向上に向けた「聖籠町発達支援集」の作成と配付＞

- ・ 各学年の発達過程を園教諭がしっかりと理解し、学年に応じたよりよい保育を実践できるように、幼児教育アドバイザーが「聖籠町発達支援集」を作成し、全園教諭と小学校に配付した。園訪問研修での指導内容をもとに、0～5歳児の学年別の発達過程と支援、保護者への啓発、行事や遊び・生活の指導のポイント、オンライン研修会の指導内容等についてまとめてあり、日々の保育に生かしてもらう。



＜聖籠町架け橋カリキュラムの自園・自校化と、園長・小学校長による架け橋期カリキュラムをもとにした幼保小接続の話し合い＞

- ・ 令和5年度にアドバイザーが作成した「聖籠町架け橋期カリキュラム」をもとに、各園・小学校で実践しながら加除修正を加えて「架け橋期カリキュラム自園・自校化版」を作成した。さらに、それをもとに関係者協議会で町立・私立園長と小学校長が小学校区に別れ、架け橋期の円滑な接続について積極的な話し合いを行った。（年2回）



※園長・小学校長による話し合い

＜園・小学校教諭による新1年生授業参観, 5歳児保育参観, 園小合同情報交換会の実施＞

- ・ 今年度は、園・小学校教諭による新1年生授業参観（全3校）と5歳児保育参観（全5園）の後に、各園・小学校で情報交換の時間を設けた。参観した様子をもとに園・小教諭で子どもの育ちや学びのつながりについて話し合い、理解を深めることができた。また、園小合同情報交換会（1回）を開催し、円滑な接続に向けて丁寧な話し合いを行うことができた。



※新1年生授業参観後の情報交換

＜幼児教育センターとこども家庭センターの密接な連携＞

- ・ 幼児教育センター長がこども家庭センター長を兼任するとともに、こども家庭センターのソーシャル・ワーカー4名は幼児教育センターにも所属し、町立・私立全園と小学校・中学校を定期訪問しながら、子どもの発達や保護者の育児についての悩み等を幼児教育アドバイザーと情報共有しながら支援にあたっている。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 石川県金沢市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

市内の幼児教育施設は、151園のうち私立が137園（幼稚園24、幼保連携型64、保育所49）と9割を占めている。幼児教育センターには保育士のほか保健師、管理栄養士を配置し、市内の全施設を対象に保育実践、衛生・給食管理及び発達支援の巡回訪問や相談対応を行っている。また、幼児教育施設職員を対象とした研修を年間58回開催するなど、域内全体の幼児教育の質向上に向けた取組を実施している。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育アドバイザーや専門相談員による巡回訪問
- ・ 公開講座や若手保育者フォローアップ研修等、人材確保・育成に向けた事業の実施
- ・ 幼児教育施設職員向け各種研修会の実施
- ・ 幼保小連携や施設特有の取り組みを支援する委託事業の実施
- ・ 東京大学（Cedep）との子どもの育ち共同研究

【取組内容の具体的な事例】

＜給食巡回の様子＞

令和6年度は99回の給食巡回を実施した。基本的には保育士・保健師が行う乳児保育巡回とあわせて実施している。巡回先では、保育者からの給食管理、衛生管理、食物アレルギー対応等様々な相談に対応し、また、管理栄養士の視点から現場の状況に応じて専門的指導を適宜行っている。

＜若手フォローアップ研修の様子＞

北陸学院大学、金沢星稜大学の2保育者養成校に事業を委託し、卒業生を中心とした若手保育者への研修、交流会を開催した。このうち北陸学院大学では、当大学以外の卒業生の参加も多く、計13名の参加があった。講師の講義を受けたあとの参加者同士によるディスカッションを通じて、日頃の保育を振り返り実践的な学びを得る機会となった。

参加者からはいずれの実施校においても、教員や他施設の職員との交流をもつことができるこのような取組を高く評価する声が聞かれた。



＜施設提案型モデル事業の様子＞

各幼児教育施設で実施される独自の取組を応援し、その取組の成果を他施設にも発信し、幼児教育発展の取組を推し進めていく事業として3つの施設に事業を委託した。

そのうち、聖ヨハネこども園では月に一度臨床心理士が巡回し、こどもの行動発達の確認・共有を図るため、毎月臨床心理士と担任とのコンサルテーションを行うなど園内研修に取り組んできた。このような取組から、施設が主体的に問題意識を持ち、園内研修を通じて職員全体で課題に取り組むことで、職員の資質向上が有効的に図られることが示唆された。



担任とのコンサル
テーションの様子

＜大学等共同研究報告会の様子＞

「子どもの豊かな心の育ちについて～子どもアート工房の取り組みから考える」をテーマに、本年度実施してきた東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）との共同研究の報告会を、令和7年2月13日開催した。

報告会では東京大学野澤准教授による研究成果報告に加え、子どもアート工房での研修を実施した金城大学短期大学部の森田教授による課題共有のためのミニ講演、さらに子どもアート工房の運営側、利用者側の立場の方々を交えた座談会を開催した。

普段の保育の実践に子どもアート工房をどう取り入れているかの具体的報告を受け、まだ利用したことのない幼児教育施設にとっても、これから情操教育を促進していくうえでのよいヒントとなった。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 福井県越前市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

越前市には就学前教育・保育施設が31施設（公私立保育園・認定こども園23園、幼稚園6施設、小規模保育事業所2施設）があり、今までも、公私立を問わず質向上のための研修を実施してきた。令和6年4月に「市乳幼児教育・保育支援センター」を開設したことで、公私立園種を越えた交流や質向上の取組がさらに進んだ。また、当センターに「幼小接続コーディネーター（元教員）」を配置したことにより、市教育振興課学校教育指導室との協働した保幼小連携（切れ目ない支援や架け橋期の取組）の効果的な取組が充実してきている。

【令和6年度における主な取組内容】

【学び合い】 学び合い講座（4講座 累計21回開催）・資質向上研修（2回）

公開保育のサポート（公立2園・私立3園他）

【育ち合い】 幼児教育アドバイザー連絡会（4回）・「共につくるスタートカリキュラム研修」への参画・架け橋期の取組啓発リーフレットの作成

【支え合い】 ポルトガル語基礎講座（4回）

【つながり合い】 未就園親子向けの集い（ふらっと広場6回）・「このみらい通信」発行（10回）

【取組内容の具体的な事例】

＜「学び合い講座」と公開保育の様子＞

- ・ 1講座15人定員、3回コースの設定でテーマを絞り開催。
同じ課題や同年代の保育者が集うことで、交流や学び合いが生まれ、事後アンケートでも、少人数でのグループワークや、質問のしやすさが良かったとの意見が多く聞かれた。
- ・ 公開保育は、今まで公立園が主に公開してきたが、近年は私立園からも公開保育の実施の希望があがっている。幼児教育アドバイザーの在籍園を中心に、“園を広く開き、保育者同士学び合うことの意義”が各園に浸透してきていると感じる。当センターが、各園の質向上の取組をサポートする仕組みをさらに明確にするため、啓発や園訪問を来年度も強化していく。



＜「共につくるスタートカリキュラム研修」の様子＞

- ・ 例年、市学校教育指導室主催の研修（福井県幼児教育支援センター講師）に、当セ

ンターも参画。架け橋期の重要性を再確認したあと、校区ごとに園（5歳児担任）と小学校（1年生担任）が、今年度の取組から、来年度の架け橋期のプログラムに活かすための具体的エピソードを出し合い、5歳児期の育ちと学びを共有した。



＜架け橋期の取組啓発リーフレット作成＞

- ・ 当センターが校区における交流活動や教員の保育参加に同行し、活動内容をホームページや「このみらい通信」で発信した。
- ・ さらに切れ目のない幼小接続推進のため、『接続リーフレット こどもの育ちをつなげよう』を作成。作成にあたっては、学校教育指導室・地元の大学・福井県幼児教育支援センター及び地域の小学校に相談した。完成後、校長会及び公私立園長会等で説明を行い各施設に配布した。

来年度は、小学校が作成する接続カリキュラムに沿いながら校区の園と共に具体的な連携活動を組み立てていくところに、当センターが同席させてもらう予定。



＜ポルトガル語基礎講座や「ふらっと広場」の様子＞

- ・ 地元の大学及び企業と市の連携協定の中で、外国にルーツのあるこどもにかかわる職員対象のポルトガル語基礎講座を4回開催。保育者や教員・外国籍児支援員等、延124人の参加があった。言語や文化について学ぶだけでなく、こどものライフステージごとの課題などについても意見交換をおこなった。
- ・ 未就園親子向けの集い「ふらっと広場」では、外国人保護者向けの集いを「市児童発達支援センター（市こども家庭センター内）」と共催でおこなった。（3回）

臨床心理士・理学療法士・療育保育士から、こどもの運動や社会性の発達や家庭での遊びの工夫等について話を聞いたり、保護者同士で悩みを出し合ったりした。日本で生活するための日本語の習得や学習への不安が聞かれたが、思いを共有し相談ができる場があることで安心するという意見も聞かれた。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 静岡県富士市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

- ・ 幼稚園 13、保育園 30、認定こども園 17、小規模保育事業所 14、事業所内保育事業所 2、家庭的保育事業 7 に、各アドバイザーがそれぞれの専門的な知見から巡回支援をしている。また、施設類型を問わず全施設の保育者が合同で専門的な研修を受けられる研修体制を整えてきたところ、参加者の幅が広がってきた。

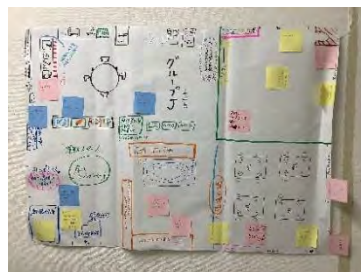
【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 富士市教育・保育キャリアアップ研修(乳児保育、幼児教育、マネジメント、障害保育、保護者支援・子育て支援、保健衛生、食育アレルギー)
- ・ 園小接続委員会の実施及び教育委員会等が入った園小接続検討部会の実施、並びにこども家庭庁の話を中心に園小職員を対象にした幼児教育・保育講演会の実施。園小連携に関する教育委員会からの研究校(園)の指定を受け、研究を開始。
- ・ 特別支援に関する公開保育及び実地指導。また発達促進芸術教育事業の実施。
- ・ 富士市教育保育訪問指導事業実施。

【取組内容の具体的な事例】

＜富士市教育・保育キャリアアップ研修保護者支援・子育て支援の様子＞

7 講座ある内の 1 講座『乳児保育』では保育のある場面の映像を見て、保育者のかかわり、環境など気付いた点を出し合ったり、遊びの視点から『理想の保育室』というテーマでグループごとにアイデアを出し合ったりしながら意見交換が活発に行われた。今後の保育実践にも活用できる考え方を学ぶことができた感想が多く聞かれた。



＜園小接続の様子＞

昨年の動きから、教育委員会より市内富士川地区の小学校・幼稚園・保育園を指定研究校の発表会が行われた。講師の秋田先生からは①令和4年度立ち上げ期にブロックを明確にし、チームを作ったこと。②校長や園長の積極的な関与での校長園長懇談会と教育委員会と保育幼稚園課担当課の連携した支援。③各学区の良さを生かす地域の独自性を生かす取組を価値付けて頂いた。発表会后、生活科ではスタートカリキュラムの検討が行われ、令和7年度には接続カリキュラム作成に向けて動こうと計画している。



<特別支援研修公開保育の様子>

日本相談支援専門員協会顧問の福岡寿氏を招き、保育園2園、こども園1園での公開保育を行った。職員の連携の取り方、子どもへの対応について、実際の先生方の動きを振り返りながらご指導いただいた。2回実施した公開保育では、先生方の動きに変化が現れ、子どもたちが主体的に動き、話合う姿や成長が感じられ、今まで5年間指導を受けてきたが、集大成というような保育の在り方が見られ、参観者も公開園の先生達から、どのようなきっかけで動きに変化が見られたかなど積極的な質問をしながら、参加者が自身の保育を振り返り、『気になる子のいるクラスづくり』について学びを深めていった。



<富士市教育保育施設訪問指導事業>

静岡大学と委託契約をし、公私立幼保こども園60施設のうち、10園の希望園を募り、幼児教育、特別支援などの観点から訪問指導を行った。各園の相談に専門的な立場で直接理論付けや価値付けをして頂いた。



実際の子どもの姿をもとに、実践についての具体的な助言だけでなく、その背景にある幼児教育の基本、子どもの発達、カリキュラム、幼児期の表現活動など、幼児教育の原点に立ち返る機会となった。また、対象となる子どもや実践について迷いや悩みを保育者自身が語り、同僚や専門家との対話を通しリフレクションすることで、自信をもって実践に臨めるようになった。園内だけでなく、幼児教育アドバイザー、参加者（近隣園保育者、小学校教諭）が、具体例をもとに語り合うことで、立場の違いを乗り越え、同じ方向を向くことが可能となった。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」 主な取組内容概要

自治体名： 静岡県袋井市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

袋井市では、女性の社会進出と共働き世帯の増加に対応して、認可保育所や認定こども園の整備を進めた。結果、保育ニーズが高まり、幼稚園の利用は減少し、市内の50施設中、約8割が保育所機能をもち、その9割が民間運営である。3～5歳児では、令和4年度に保育所の園児数が幼稚園を上回り、令和7年度以降は保育園児が6割強となる見込みである。

この現状を受け、袋井市は令和2年度から幼児教育センター事業を開始し、幼児教育アドバイザーによる支援や研修を実施してきた。保育の質向上や小学校への接続、個別配慮が必要な子どもへの対応を強化できるよう、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校との連携を進めている。

【令和6年度における主な取組内容】

- 幼保小接続に関すること（架け橋プログラムとの連携）
 - 子どもたちの不安やつまずきをなくし、滑らかな幼保小の接続に向けた取組
- 特別支援体制の構築
 - 関係機関と連携し、より良い支援体制の構築、インクルーシブ教育（保育）の推進
- 研修支援
 - 保育者が参加しやすく、ニーズに応じた研修内容や研修方法の工夫
- 情報に関すること
 - 教育・保育の質の向上に関する情報提供と県・各施設との連携推進
- 人材育成・その他
 - 幼児教育アドバイザーやミドルリーダーの育成など
- 保護者支援
 - 家庭との連携、子育てに悩む保護者への相談・支援

【取組内容の具体的な事例】

＜訪問支援の充実・強化＞

幼稚園や保育所、こども園の依頼に応じて訪問し、計画的な巡回訪問や研修を実施し、幼児教育・保育の質向上を図った。小規模園や子育て支援センター、放課後児童クラブからの要請にも積極的に対応し、連

幼児教育アドバイザー訪問・支援回数					
園 別	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
公立園	14	16	42	47	111
私立園	7	7	48	61	96
連携・接続	1	7	9	16	48
その他	0	1	3	11	20
計	22	31	102	135	275

* R7. 1. 31現在

携・接続の推進を踏まえた小学校訪問も行った。

本年度は昨年度に比べ、訪問支援の回数が飛躍的に増加し、子どもの発達・成長の連続性を意識した取り組みに繋がった。

＜幼保小接続の推進＞

スタートカリキュラムとして、袋井市内 12 小学校で架け橋コーディネーターとともに子どもの様子を観察し、改善点を話し合いカリキュラムに反映した。年度後半には、年長の保育を重点的に参観し、就学に向けた取り組みを支援・助言した。

交流活動では、公立・私立園と小学校の交流を参観し成果を確認した。配慮が必要な子どもについては、特性や背景を理解した支援を小学校に伝え、適切な対応を話し合うことができた。

放課後児童クラブについては、昨年度に比べて施設訪問を増やし、1 年生の実態を中心に観察、話し合いを進めた。保護者への支援も含めて対応することができた。

＜研修＞

公立私立園を問わず、幼児教育アドバイザーによる定期的な訪問研修を実施し、保育の質向上を図る取り組みを進めた。特に、こども園では、職員のシフト調整が研修時間の確保の課題となっていた。

A 園の事例

第 1 回：幼児の発達やクラスの実態に応じた室内環境が整備され、一人遊びや友達との遊びができる場が工夫されていた。また、継続した遊びや用具の使いやすい配置も配慮されていた。



環境の再構成や配慮を要する幼児の発達に応じた成長を促すための方法を省察し合った。



第 2 回：自然物遊び。友達と会話を楽しみながら遊ぶ姿が増え、戸外での家作りを楽しんでいた。言葉の表現が豊かになり、自分の思いを表現する姿も増した。

一方、遊びに加わるきっかけをつかめない幼児への関わり方や、豊かな自然環境との出会い方・活かし方について課題が見られた。

第 3 回：継続した研修参加により、以下の考察がまとまった。

- ・ 幼児が必要な自然物を園内から見つけるという生かし方も楽しいのではないかな。
- ・ 個々の幼児に応じた遊びへの誘い掛けや気付かせ方がある。気持ちに寄り添った「やってみたい」と思えるような言葉掛けを考える。
- ・ 生活習慣は日々の積み重ねが大切である。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 静岡県牧之原市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

今年度から幼稚園が統合され、保育所 11 園（公 3、私 8）、幼保連携型こども園 5 園（公 2、私 3）となった。公立園 5 園と私立保育所 6 園では、合同研修や公開保育を行い連携しているが、私立こども園とは合同研修の声かけのみに終わっている。また小学校との連携も小学校区ごとの交流は行われていて、連携が進みつつある学区もあるが、学校教育課との熱量の違いが大きく思うように架け橋が進んでいないのが現状である。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 研修支援（合同研修実施（安全管理・保育・療育・食育）、歳児別公開保育の実施・支援、園内研修に参加）
- ・ 幼保小接続の推進（小学校との連絡協議会に参加、各小学校区の連携体制の推進）
- ・ 県との連携（アドバイザー研修会に参加、「保育プロセスの質リフレクションシート」活用支援事業・幼児教育サポートチーム訪問支援事業の活用）
- ・ 人材育成方針の活用（新採保育士研修実施、園長会・主任会での指導・助言）

【取組内容の具体的な事例】

＜合同研修実施＞保育の質向上に向けて市内の公私立全職員対象に研修会を実施した。

- ・ 6/10「重大事故・不適切保育を起こさないために～「子どもの権利」から保育の安全を捉え直す～」 講師：猪熊弘子氏 ・ 参加者：143名
- ・ 7/19「インクルーシブ保育におけるクラスワイドな支援」
講師：常葉大学保育学部准教授 赤塚めぐみ氏 ・ 参加者：100名
- ・ 8/29「子どもの主体性を引き出す保育環境」 ・ 参加者：114名
講師：お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション特任教授 宮里暁美氏
- ・ 10/24「園児・保護者への食育指導」 ・ 参加者：106名
講師：静岡県立大学食品栄養科学部教授 桑野稔子氏
- ・ 1/10「ドキュメンテーションのよりよい活用のために―保育の質向上に向けて―」
講師：玉川大学教育学部教授 大豆生田啓友氏 ・ 参加者：143名

- ◎ 公私の保育所、こども園の職員が一堂に講義を受けることで共通理解ができ、その後の保育に活かすことができた。

＜保小連携の様子＞

- ◎ 昨年度から交流があった勝間田保育園と勝間田小学校では、年長児が1年生や2年生と交流を進める中で、お互いの保育や授業の連携が見られた。1, 2





年生が招いてくれたゲーム屋さんが楽しくて、園に戻ってから「自分たちも作っておもちゃ屋さんをやりたい」と段ボールや空容器等、小学生が作っていたものを思い出しながら作り、3,4歳児を招いておもちゃ屋さんを楽しんだり、2年生を招待しておもちゃ屋を開いたりした。また、校長、教頭先生が学校内を案内してくれ、特に1年生の教室では席に座らせて

てもらおう等、学校探検を楽しむことができた。

◎ 地頭方小学校長は、地頭方保育園の年間計画を基に架け橋カリキュラムの案を作成してくれた。また、校長自らギターを持って来園し、年長児と一緒に歌を歌ったり小学校の話をしてくれたりした。子どもたちも緊張がほぐれて会話を楽しみ、小学校への期待が高まっていた。来年度には作成したカリキュラムを活用して検討したり、お互いに公開保育や研修会を持ったりして連携を深めていきたい。



<「保育の質リフレクションシート」活用事業の様子>



- ・ 今年度は8月8日に牧之原市菊川市学校組合立牧之原保育園に静岡大学の田宮縁教授と静岡県教育委員会義務教育課幼児教育推進室の石川和巳室長、三輪直司教育主任を招き研修を行った。エピソード記録とエピソード記述の違いやドキュメンテーションのコメントの書き方等指導していただき勉強になった。

◎ 昨年は主任保育士の研修だったが、今回は園内での研修だったので、研修後保育士全員がファシリテーターになり研修を進めることができ、それぞれの学びにつながった。ただ、1園のみの研修で終わってしまったので、他園や小学校への呼びかけが必要だったと反省した。

<幼児教育サポートチーム訪問支援事業の活用の様子>

- ・ 内容：9月12日13:30～15:00に特別支援教育士の夏目徹也氏をお招きして「発達障害の理解と支援～幼児では～」の講義をお聞きした。
- ・ 参加者：公私保育所、こども園の加配児担当職員、福祉相談課職員等 計30名

◎ 気になる子や加配児担当の短時間勤務の会計年度職員が参加できる研修の機会が難しいため、県のこの事業を活用し療育について研修会を持った。代表的な発達障害のことや基本的な考え方やかかわり方等をお聞きすることができた。「二次的な障害を防ぐこと」「保育士はいつも笑顔で元気いっぱい」「広い心、よき理解者」等、大きな愛を持って支援していくことが大切だということを学べたとの感想が多かった。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 静岡県東伊豆町

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

- ・ 幼児教育施設 13 園、小学校 16 校
- ・ 元公立幼稚園園長 1 名を 1 市 5 町の共同設置幼児教育アドバイザーとして設置。
- ・ 1 市 5 町の幼児教育施設を訪問し、教育・保育の質向上のため指導・助言を行う。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 巡回訪問
- ・ 要請訪問
- ・ 園長会等での講話
- ・ 幼小接続推進研修会の企画・運営

【取組内容の具体的な事例】

＜幼児教育施設への巡回訪問＞

- ・ 13 園を年 1 回・保育参観・・・「子どもの興味関心をとらえた保育が展開されているか」「子どもたちが、自分の思いを出しながら遊びや活動に取り組んでいるか」という視点のもと、保育を参観する。
- ・ 事後研修・・・指導案から先生方の思いを読み取り、遊びの中の学びをとらえ、教育要領を踏まえながら実践について、具体的に助言する。



＜小学校への巡回訪問＞

- ・ 16 校を年 1 回
- ・ 授業参観・・・園で育まれたよさが小学校でどのように発揮されているかという視点で授業を参観する。
- ・ 校長懇談、担任懇談・・・入学当初の 1 年生の様子や 1 年生が安心して学校生活を送るための工夫、スタートカリキュラムの工夫、子供のよさと可能性についてうかがう。



<要請訪問>

- ・ 小学校、幼児教育施設からの依頼に応える R6 49回
- ・ 先生方向けのテーマは「幼稚園教育要領等の内容」
「国の動向と県の方向性」「造形活動への指導」
「地域内の幼小接続」「キャリアステージに応じた研修」
「教師に求められる専門性や資質能力」「小学校教育を見通した架け橋期のカリキュラム」など。
- ・ 保護者向けのテーマは「家庭教育との連携」「幼児教育の重要性」など。



<幼小接続推進研修会>

- ・ 参加者は幼児教育施設 13 園、小学校 16 校より 1 名ずつ。
- ・ 幼児教育アドバイザーによる講義…「幼児期の遊びを通した学びを小学校教育へつなぐ」

幼児教育の遊びの事例、小学校訪問の様子（授業、校長懇談、担任懇談）

幼保小の架け橋プログラムについて、架け橋期の教育の充実

- ・ 演習…「学びをつなぐ幼小の接続について語り合う」



<今後に向けて>

- ・ 日々の保育、自らのキャリアステージに応じた研修等を通して、理論と実践を往還しながら、学び続ける教師を支える。
- ・ 幼保小架け橋プログラムの理念の周知と理解を深めるため、地域の状況に応じた円滑な接続の推進に携わる。
- ・ 質の高い幼児教育を目指し、保育実践や園内研修の充実を図るための支援を行う。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」 主な取組内容概要

自治体名： 静岡県函南町

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

令和2年4月、教育委員会学校教育課内に幼児教育センターを設置し、令和4年度から令和6年度に幼児教育推進体制を整え、幼児教育の質向上強化を図ってきた。異なる幼児教育施設で、質の高い教育・保育を推進していくために、保育者の実態を踏まえた研修を企画・実施してきた。また、保育者の処遇改善、園運営の補助職配置（事務職・用務員）、帳簿類のデジタル化、会計年度職員の処遇改善、法定研修の受講者対象の増員、研修受講の機会増加（保育者の希望内容の研修・保育者経験年数ごとの研修・オンライン研修）等を進めた。参集型の研修会では、保育者や教員同士が語り合う場を設け、互いの教育観の理解や交流を深めた。

教育・保育の事務処理では、令和7年度架け橋プログラムを促進していくうえでも、厚生部子育て支援課と教育委員会学校教育課が密に連携して、教育・保育の効果的で効率的な体制の構築を目指すとともに、幼保の事務一元化を要請していく。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 保育者アンケート、保育者面談の継続実施（勤務や研修の実態把握、保育に専念できる職場環境の構築）
- ・ 幼児教育アドバイザー等による巡回訪問・研修支援、子育て支援員による巡回訪問・就学支援
- ・ 架け橋プログラムの考え方を園校に定着するために「接続研究推進会議」の設置及び委員会の開催、園長会・校長会への説明
- ・ 保護者向けの幼児教育リーフレット2号、保育者向けパンフレット改訂版の発行
- ・ 保護者の保幼小接続に関するアンケート調査
- ・ 幼保こ小の接続を目指した研修会の実施（保幼小連絡会・主幹教務主任研修会・教頭会）
- ・ 保育者の質向上のための研修会実施（大学の教授等を招へいしての講演会の実施等）

【取組内容の具体的な事例】

＜架け橋プログラム定着のための取組＞

令和元年より接続期カリキュラムを各々の教育施設で作成してきたが、育てたい子どもの姿が十分に共有できていなかったり、幼児教育施設と小学校で子どもの学びについて意識の差が見られたりした。また、カリキュラムを作成する職員が限定されており、カリキュラムに対する理解が他の職員に広がらなかった等、幼児教育で育まれた資質・能力をつなぐカリキュラム編成や実施が行われていない現状があった。そこで、架け橋期における教育の充実のため、子どもに関わる全ての関係者（保幼小中の職員）が立場を超えて、連携・協働で取り組むための組織として「接続研究推進会議」を立ち上げ、今年度は3回の会議を開催した。

1回目は架け橋期のカリキュラム作成の構想と手順を理解し、園・小中学校で共通する行事を取り上げ、育てたい子供の姿について「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の観点で話し合った。2回目は、1回目の話し合いを基に中学校修了時の目指す子ども像について検討した。3回目は、①中学校修了時の期待する子ども像について②架け橋期のカリキュラムで目指す姿の3つの視点③小学校1年生4・5月のゆるやかなカリキュラムのネーミングについて話し合った。目指す子どもの姿、3つの視点、ネーミングが決まり、令和7年度からの架け橋プログラム作成の準備となった。



【グループ討議の様子】

＜幼保こ小連絡会＞

今年度は園と小学校の接続を意識し、1年生授業参観後の全体会に「彦根市立城東小学校の入学当初の子どもたちの取組内容の動画視聴」をする時間を設け、視聴後、接続の視点で話し合った。情報交換では、園の環境や子どもの様子について小学校から園に質問して、今後の指導に生かしていくやり方に変更した。職員同士の語り合いの場を充実するための時間の確保が課題となった。



【ビデオ視聴の様子】

＜教頭会研修会＞

架け橋プログラム定着のための一つとして、町教頭会を臨時に設けた。東海大学幼児教育学科准教授 寶來生志子氏が、「みんなで伴走し、育てよう！ 函南町の子どもたち～架け橋期の教育を考える～」と題して、講演会（オンライン）を行った。各小中学校教頭と希望する保育者の参加があり、講演後、小グループに分かれて接続について意見交換を行った。研修会のアンケート「接続について当事者としてできること」の質問では「子どもの思いやつぶやきを拾いながら教育活動に生かす視点は、小学校に限らず中学校でも必要。本校の職員にもそうした視点と“子どもに任せる勇気”や“子どもに任せられる大枠を教員がもつこと”を伝えていきたい」「子どもの主体性や好奇心を生かした学校生活になるよう先生方に架け橋期の大切さを伝え、全校でその時期を支えられる体制を整えるよう声掛けや研修を推進していきたい」「園でも子どもの主体性を大切にしたい保育についても一度しっかり見直し、円滑な接続ができるよう、年長の担任だけでなく全職員が意識をもてるようにしたいと感じた」等、職員の意識改革、子ども主体の教育、円滑な接続、架け橋期の取組を職員へ周知、共有、交流、つながる等のキーワードがあがり、架け橋プログラム推進のための糸口となった。



【分科会の様子】

＜保育者の質向上のための研修会＞

保育者の質向上のための研修会では、6月に玉川大学教授 若月芳浩氏に「保育を楽しむヒント第2弾」と題して講話をいただき、講演会後分科会を行った。8月にはこども支援室 Cocon 代表 定金雅子氏に「食べる力を支えるために～作業療法の視点から偏食と飲み込みの支援を考える～」と題してオンライン研修を行った。保育者のみならず、支援員も参加しての研修となり、保育や支援に生かせる内容に好評を得た。2月にはこども教育宝仙大学教授 守巧氏が保育参観と講演会を実施した。保育参観後、保育者が日頃の悩みを直接聞く時間を設けたことで、インクルーシブ保育のヒントとなった。午後は「インクルーシブの考えを生かした保育について」「働き方改革につながる保育日誌・記録の取り方について」をテーマとした講演を聞いた。町立幼保・こども園・組合立、私立保育園、小学校、近隣市町から参加者があり、研修会アンケートでは「インクルーシブ教育と聞くと支援児の支援に意識が向いていました。しかし、幼稚園で療育を目指すのではなく、集団の中で特性がある子どももそうでない子どもも育ち合える環境援助の工夫をしていくことが大切なのだ」と学ぶことができた。「子どもをよく見ること、観察しポジティブに子どもを捉えていくようにしたい。また園全体で共通理解がもてるよう付せんを活用していきたい。普段から風通しのよい人間関係、雰囲気作りを心がけたい」等、多くの感想があった。参加者が自己を振り返り、意識改革につながる研修会となった。これからも保育者のニーズに合った研修会を企画・実施し、質向上を目指していく。



【分科会の様子】

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：三重県四日市市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

幼児教育センター開設2年目。各就学前施設のビジョンやグランドデザインを尊重し施設の種別を超え、安心と循環の挑戦を子どもたちに保障する保育者の資質向上をめざし研修会の開催、幼児教育アドバイザーの訪問・相談事業、情報発信・研究を計画し、実施している。特に、アドバイザーによるアウトリーチ型支援を実施。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 40 講座の研修実施。「全体研修、職層別研修、専門研修、実践研修」を集合型、ライブ配信、アーカイブ配信などの多様な研修形態で実施し、集合型研修を重視し、実践を語りあうことに取り組む。
- ・ アドバイザー（幼児教育アドバイザー、スーパーバイザー）による訪問支援では、伴走型支援を重視し、若手保育者の育成、各施設ニーズに合わせた取組みを実施した。
- ・ 情報発信 研究推進（ホームページ掲載、研究協議会開催、公開保育研究実施）研究協議会は、全体研修や接続研修などと開催日を合わせ実施した。

公開保育（研究）実践検討会は、昨年度の反省を踏まえ、幼児教育アドバイザーが公開保育実施担当園に対し、複数回訪問し、研究を推進した。また、各公開保育実施園には、研修会当日の助言者となるスーパーバイザーが訪問園内研修を行い、幼児教育アドバイザーも同行し、園の研修が積み重なるようにしていった。

【取組内容の具体的な事例】

＜就学前教育・保育と小学校教育との接続・連携に関する研修の様子＞

『遊びがこどもたちの未来をつくる』のテーマのもとスーパーバイザーの三重大学教授 富田昌平氏、岐阜聖徳学園大学教授 西川正晃氏、桜花学園大学教授 上村晶氏を各ブロックの公開保育（研究）実践検討会の助言者に迎え、公開保育参観の実践検討会では遊びのプロセスを語りあうことをねらい、グループワークを実施



こどもの姿・保育者のかかわり・環境の視点から3つの資質・能力がどのように育ちつつあるのか小学校教育関係者、公私立就学前施設関係者など研修参加者が意見を交流し、こどもの主体性を育てるために自身の実践を振り返り、学びあった。実践検討会のオンライン参加の環境を整えたこともあり、昨年に比べ参加者も増えた。「子どもたちが自らやりたいと思える環境やかかわり、保育の展開がありとても学びになった」「グループワークを進めていく中で、こどもの姿、環境、かかわりを1つずつとりあげていくことで、"このときの子どもたちの思いはなんだろう

"環境面、保育者のかかわりはどうだったか"を振り返ることができ学びが深まった」(研修後のアンケートより)

おしゃべり会同日開催(年間開催回数8回)

昨年度に引き続き、集合型研修会終了後に、他施設の職員や幼児教育アドバイザーとコミュニケーションをとり、保育者間の交流を図り、モチベーションアップにつなげ、当センターが一人ひとりの保育者の安心できる場所になるようにしていった。また、幼児教育アドバイザーが考えた明日からの保育に活かせる手作りの遊具を製作できるコーナーを設定し、自然に人が集い話の輪が広がるようにした。



＜幼児教育アドバイザーの訪問・相談事業の様子＞ (常勤職員4名その内小学校接続担当1名)

幼児教育アドバイザーが施設のニーズの合わせた園訪問(103園)実施

- ・ 昨年の園訪問アンケートより、研修テーマ「こども理解・環境構成」「保護者対応」「小学校との接続」「人材育成」「その他」に分類・分析し、各施設が園訪問で幼児教育アドバイザーと共有できたことを把握し、2年目へ積み上げた。



【幼児教育アドバイザー訪問に係るアンケートより】

- ・ 「小学校の接続では、小学校との交流について相談でき、授業見学を実施するようになり定着していきたい」「今後も、園の保育内容と照らしあわせ、小学校への接続についてアドバイスしてほしい。」「客観的な

意見をいただき、前向きな振り返りとなった。多くの目で保育を見ることで、より豊かな学びになる」「日頃、誰にも話すことができない悩みを話すことができ貴重な時間であり、有意義な訪問であった」

＜研究推進の様子＞

公私立就学前施設関係者や教育委員会関係者や学識経験者等から成る四日市市幼児教育・保育研究協議会設置



全体研修講師のこども家庭庁育成局 教育保育専門官 鎮目健太氏、連携・接続研修講師の国立教育政策研究所幼児教育センター 副センター長 総括研究官 堀越紀香氏に来賓出席していただき、あいさつや助言をいただいた。昨年度作成した「四日市市就学前教育・保育カリキュラム」の活用について、0歳からのこどもの育ちの重要性や小学校との接続にどのようにつなげていくかなど、それぞれの委員が活発な意見を出しあった。保育者一人ひとりが実践に取り組んでいけるよう「四日市市就学前教育・保育カリキュラム活用版」を作成し、四日市市の保育者全員に配布することを決定した。研究協議会の回を重ねることで、委員がそれぞれの現場の情報や今後の方向性に対する真摯な意見を出し、討議が深まった。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」

主な取組内容概要

自治体名： 滋賀県近江八幡市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市の幼児教育・保育施設は34施設であるが、その8割を私立園が占める。公私・施設類型を問わず市内すべての施設の教育・保育の質の向上を図るため研究・調査を行い、あわせて相談・支援や研修を行う「近江八幡市幼児教育センター」を令和4年4月に設置した。センター長と2名の幼児教育・保育アドバイザーを配置し、市内の幼児教育・保育施設への訪問支援や各種研修を実施して、市内の幼児教育の質の向上に取り組んだ。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育の質の向上に向けた研修・研究及び会議の実施
- ・ 就学前施設に対する教育・保育の相談・研修支援・助言・情報提供
- ・ 幼保小教育の連続性・一貫性につながる接続連携の合同研修や会議の実施
- ・ 発達支援に係る保健・福祉部局との連携及び巡回相談

【取組内容の具体的な事例】

＜幼児教育と小学校教育をつなぐ取組の様子＞

① 相互参観（公開授業・公開保育）、小学校職員の保育体験

夏休み中に小学校区内の保育所に小学校職員が保育体験に出向き、5歳児の子どもたちや職員と活動を共にする保育体験を行った。

体験後、質問カードを手がかりに、活動前後の保育室と遊戯室の移動の仕方や、保育所の運動遊びと小学校での体育の授業の内容も伝授しあった。



② 小学校教頭会、副園所長会合同研修会の開催

「架け橋期のカリキュラムの充実を目指して」を演題に滋賀県幼児期教育センター主査を招いて合同研修を行った。市内の教職員・保育者が一堂に集まり、滋賀県幼児教育振興基本方針や今後の架け橋期のカリキュラム作成について、フェーズごとに説明をしてもらい理解を深めた。

※各小学校区の幼保小接続推進会議を起点に、それぞれ取組は推進しているが、上記のような機会を得て顔なじみになり学区の実情を共有する中で一層相互理解が深まった。

＜出前研修の様子＞

近江八幡市就学前教育・保育育成指針の「主体性を育む」「協同性を育む」をテーマに

A「子どもの姿から一緒に学ぼう・気づいてみよう」
B「自分の保育を振り返ってみよう」からひとつ選択してもらい、各幼児教育施設に動画を取りに行き、視聴後に付箋を使ってグループ討議を行う出前研修を行った。



＜保育充実保育士会及び研修担当合同会議の様子＞

本市独自の補助金事業として、保育充実のための保育士を私立保育所・認定こども園に配置する事業を実施している。



フリーの保育士を配置することで、外部研修参加促進や園内研修の企画の体制整備ができつつある。年4回の定例会議でミニ研修を行い情報発信すると共に、中学校区ごとのエリア会議で公立の研修担当と交流を図り横のつながりを深める情報交換や研修や研究の手法について学びの機会を持った。

※ 公私の園内研修や研究を推進する職員が参加し、各園の取組を情報交流すると共に、直近の保護者啓発のドキュメンテーションや、実際にお店ごっこで使用した素材や教材を持ち寄り、新たな保育教材や素材の発見や具体的な実践を交流しあう機会となった。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：滋賀県東近江市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

東近江市の幼児教育施設は、公立19施設（幼稚園5箇所、認定こども園13箇所、小規模保育事業所1箇所）、私立15施設（保育所3箇所、認定こども園6箇所、地域型保育事業所6箇所）、子育て支援センター6箇所、民間のつどいの広場7箇所がある。4分野の専門育成研修（研究主任、幼小連携担当者、発達支援教育コーディネーター及び子育て支援員）を中心に、幼児教育アドバイザーが巡回（公立のみ）や研修を行い、幼児教育の質向上を図った。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育アドバイザーの園巡回指導（園内研修、幼小連携、発達支援、市新採研等）
- ・ 人材育成指標の活用と検証
- ・ 4分野の専門育成研修や保育力アップ講座（実技等を含む）の実施
- ・ 学校教育課と連携した幼小連携の取組
- ・ 幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業の報告会及び講演会の実施（市外にも案内）

【取組内容の具体的な事例】

＜幼小連携担当者育成研修の様子＞

幼小連携モデル地区を指定し、「学びの連続性」を視点を研修会（公開保育・公開授業・研究協議）を行った。市内の幼小連携担当者が参加し、幼保小の教育の相互理解、育ちや学びの共有ができた。



＜保健研修の様子＞

養護担当者会が中心となって、エリアごとに嘔吐処理研修を実施した。また、幼児課付け看護師による公私立10園で保健指導を実施した。緊急時における対応技術の向上、衛生管理、保健関係書類等の再確認ができた。



＜研究主任育成研修の様子＞

講義と連動したグループワークや各園の実践を併せて意見交流をすることで、研究主任の育ち合いの場になっている。また、学んだことを生かして園内研究を進めるなど育成研修の成果が見られた。民間園からの受講者も定着しており園内研究の取組が全市で浸透してきた。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 京都府舞鶴市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

舞鶴市乳幼児教育センター(以下、「センター」)を拠点に、「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」(以下、「ビジョン」)に基づいて、『乳幼児教育』『発達支援』に関する事業を実施。乳幼児教育コーディネーター、発達支援教育コーディネーター、保幼小接続コーディネーター各1名、相談員2名を配置し、「情報発信」「研究」「研修」「連携」「園訪問」を通じて、家庭や地域、園校の乳幼児教育を「コーディネート」「サポート」している。研修等を通じて、公私、園校種を越えて学び合う機会となっている。

【令和6年度における主な取組内容】

- ◎ 保育者研修・育成指標に基づき、キャリアに応じたドキュメンテーション研修
- ◎ 公開保育をきっかけとした乳幼児教育コーディネーターによるサポート
- ◎ 気軽に公開し、気軽に参加できるミニ公開保育
- ◎ 保幼小接続コーディネーター等による連携協力園校へのサポート

【取組内容の具体的な事例】

＜ミニ公開保育の様子＞

参観クラス	参加
3、4歳児	7名※園長、副園長等を対象に
4、5歳児	31人※地域の小中学校の教職員も含む
0、1、2歳児	5人
0、1、2歳児	21人※府内外市町から参加14名を含む



～小さな語り合い～

公開するクラスや参加人数を少なくし、気軽にできるミニ公開保育を実施した。公開園に対しては、指導案の作成をなくし、1時間のみ保育を公開し、参観後に1時間程度、参観者と保育について語り合う内容とした。公開する保育者も気負うことなく、日々の保育を公開することができ、参観者も、自分の参観したいクラスをじっくり見ることができ、互いに語り合うことで、自分の保育を振り返り、実践にいかすことができる良さがある。乳幼児教育コーディネーター等も参加し、ともに保育を語り合えるようにサポートしている。

～多様な視点での語り合い～

参加対象を分けたり、地域の小・中学校の教師や市外の保育関係者にも公開したりして、多様な視点で語り合えるように工夫した。小・中学校の教師には、乳幼児教育コーディネーターが遊びの中の学びの姿を解説し、学びがつながっていることを知る機会となった。また、市外の参加者からは、「0、1、2歳児の保育は見る機会も少なく、どうしたらよいか悩んでいたの、とても参考になった」「様々な視点で語り合うことができた」といった感想が聞かれた。

＜保幼小連携活動の様子＞

指導主事や保幼小接続コーディネーター等が連携協力園校との打ち合わせや振り返り、5歳児と1年生の連携活動当日に訪問し、単なる交流から「学びを深める、学びをつなぐ連携活動」となるようにサポートを行った。連携活動は、子どもの興味や関心、願いから始まり、一緒に活動することで対話が生まれたり、それぞれの発見や工夫が見られたりするようになってきた。保育者や教師は、環境を整え、一人一人の子どもの思

いや考えに寄り添い、認めたり、問いかけたりする援助や関わりが重要であることを、研修等を通じて学ぶことができた。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 (三つの資質・能力)

保幼小連携活動年間計画

連携活動における期待する姿の明確化

連携活動の充実のための4つの視点

- ①子どもの興味・関心(意欲、好奇心など)
- ②一緒に活動(つくる 対話するなど)
- ③環境の工夫(教材)
- ④学びを引き出す関わり(待つ・問いかけなど)

ルンビニこども園・福井小学校の保幼小連携活動 ～実践報告より抜粋～

期待する子どもの姿

5歳児 自分の思いや考えを自分の言葉で伝え、工夫したり協力したりして、意欲的に活動しようとする

1年生 自分の考えたことを伝えたり、行動に移したりして、粘り強く挑戦する

7月 水でつぼうあそび

①思考を繰り返す姿
②気付いたこと・考えたことを言語化する姿

一緒に活動 「試行錯誤」できる活動にする

学びを引き出す関わり 思考を促す「言葉」をかけたり「振り返り」を丁寧にしたりする

7月 水でつぼうあそび

7月の「水でつぼうあそび」では、『どうしたら遠くまで水がとぶのか』を考えさせたいと、環境の工夫として、用意する材料は、マヨネーズなどの容器やペットボトル、ナイロン袋という、シンプルな材料にされました。

的は、グループで手作りし、ぶら下げる場所も相談します。張り切って容器を使って水を飛ばそうとしますが、容器の上まで水がうまく入らず、遠くまで飛ばしません。水をたくさん入れたり容器の押し方を変えたりして、的をねらいます。また、ナイロン袋に穴を開けるのにはさみや名札の安全ピンを使ったり、ジップブロックの持ち方を変えたりするなど、水をどうにかして遠くに飛ばしてのちに当てようと、繰り返し工夫する姿が見られました。

10月 おはなしすごろく

①おはなしすごろく
②学校探検
③おはなしすごろくづくり

11月 おはなしすごろく

①おはなしすごろく
②学校探検
③おはなしすごろくづくり

12月 おはなしすごろく

○自己発案する姿
○考えを出し合い、協働する姿

環境の工夫 紙袋を使い、工夫を引き出す

子どもの興味・関心 子どものやりたことを大事にする

一緒に活動 図画工作科(他教科)とつながる活動にする 対話しながら思考や気付きの活動にする

先生たちは、「こうしたらいいよ」とは言わず、「どうしたら飛ぶのかなあ」「友達に聞いてみたらどう?」と言葉をかけられました。

振り返りでは、気付いたことや考えたことをとをたずねられました。保育者が、子どもの言葉をよく聞き、「なんでできたん?」「どうしたらできたん?」と丁寧に問われることで、いつも以上にたくさん話をしたり進んで発言したりする子が多かったそうです。

活動を通して1年生が知っている言葉や発想が年長児にはないもので、とてもよい刺激になっていました。何かを教えてあげたり、伝えたりするような活動でなくてもそのような姿が見られるんだと感じました。

最初の保幼小連携の研修会で、私の知っているこれまでできていた活動(1年生主導の活動「学校紹介」や「秋のフェスティバル」)ではなく、「互恵性のある活動でなければならぬ」とことを知り、衝撃でした。じゃあ、具体的にどんな活動がよいのか、自分の中でよく分からないままのスタートでしたが、3回の活動を通して「とにかく子ども達が一緒に考えたり、悩んだりしながら、楽しめる活動であること」が、それぞれの成長につながる活動だと感じています。

5歳児も1年生も主体的に活動に参加し、お互いが気付きを持ち、共有し合える活動を意識して取り組まれた連携活動の実践に、多くを学ぶことができました。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 大阪府大阪市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

就学前施設と小学校が互いの教育を理解し合い、連携・接続の一層の充実を図ることや学びの連続性を重視して教育の質向上に努めることを目的として、就学前教育と小学校教育の連携・接続の進め方とあり方を研究している。保幼小連携・接続研究のサポートや就学前教育カリキュラム研修の実施、アドバイザー研修受講の集約等を行い、市内就学前施設の教育・保育の質向上や幼児教育アドバイザーの育成を推進している。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 令和6・7年度の2か年を通して、保幼小連携・接続推進事業第4期として、小学校と近隣就学前施設2～3園所で構成された2ブロックにおいて、連携・接続の進め方やあり方を研究している。
- ・ 大学教授等の有識者を招聘し、センター主催の研修会を2回、小学校教育研究会と共催の研修会を1回開催した。

【取組内容の具体的な事例】

＜保育園と幼稚園の交流活動（横のつながり）＞

保育園と幼稚園の5歳児が、6月に幼稚園でどろんこ遊び、9月に地域の公園でのリレー遊び（中止）、11月に保育園で好きな遊びを計画して交流した。各園所内で交流会を楽しみにするような取組をしたり、保育者同士の話し合いを行ったりして、当日を迎えたことで、回数を重ねるごとに互いに積極的に関わろうとする子どもたちの姿が見られた。



＜小学校と保育園・幼稚園の交流活動（縦のつながり）＞

・ 小学校の『カーニバル』では、5歳児も楽しめる様々な遊びを準備したり、小学生が優しく関わったりした。5歳児は、小学校が楽しいところであることを感じていた。

・ 小学校のプールで、5年生と保育園5歳児、4年生と幼稚園5歳児が一緒に活動した。5歳児は、学校の施設を使う楽しさを感じたり、小学生の頼もしい姿に憧れをもったりすることができた。



＜討議会や学習会の実施（教員・保育者のつながり）＞

・ 大学教授による交流会での指導助言や講話を含めた学習会を行い、教員や保育者が互いの教育・保育内容を理解し合う重要性を感じていた。



- ・ 合同避難訓練や小学校栄養教諭による給食授業等もあり、学校全体で就学前施設を意識するように位置付けていた。
- ・ 次年度は、上級生の児童だけでなく、全ての学年が就学前施設の子どもと関わる活動を計画している。保育園・幼稚園では、他の年齢の子どもたちの学びの連続性を意識することを考えている。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 大阪府堺市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

民間施設が89%を占める中、市内の幼児教育の質向上に向けて、公立園（研究実践園）における公開保育や、幼児教育実践交流セミナーにおける施設間交流（ちょこっと公開保育）の実施等、施設種別を超えて学び合える体制を構築。園内研修の充実や、教職員のスキル向上のため、各施設のニーズに応じ、多様な専門家を堺市幼児教育アドバイザーとして派遣する「堺市幼児教育アドバイザー等派遣事業」等、幼児教育センター機能の充実を図っている。

【令和6年度における主な取組内容】

- すべての幼児教育施設を対象とした「幼児教育研修会」や、ミドルリーダー育成のための「幼児教育実践交流セミナー」の実施
- 配慮を要する幼児に対する支援について、大学教員や臨床心理士等の専門家による巡回相談の実施
- 各施設のニーズに応じた助言や支援を行い園内研修の充実を図るため、堺市幼児教育アドバイザー等派遣。
- 幼保小合同研修を年3回開催するとともに、令和6年度より、8小学校区を幼小接続支援事業の指定校区とし、近隣の就学前教育・保育施設との相互参観や合同研修等への専門家派遣。

【取組内容の具体的な事例】

＜幼小接続支援事業の様子＞

「幼小接続支援事業」を立ち上げ、8小学校区を指定校区とし、近隣の就学前教育・保育施設との相互参観や、専門家を招いた合同研修、こども同士の交流など、架け橋期の円滑な接続に向けて、それぞれ創意工夫しながら取組を実施している。相互参観では、研究授業や夏休み等を活用し、参観や討議の場をもつことで、こどもの学びや育ちについて幼児教育と小学校教育の双方の視点から意見交換をすることができた。また、校園長を経験された専門家を招き、講話やグループワークなどの合同研修を行うことで相互理解を深めた。こども同士の交流では、泥んこや、秋の自然物を取り入れた活動等、幼児期と1年生の共通の題材で、事前事後の話し合いを深めながら交流を行ったり、共に指導案を考え授業実践をしたりすることで、学びのつながりを捉えることができた。



＜幼児教育実践交流セミナーの様子＞

施設間交流を中心に理論学習と往還させた実践型のセミナーとし、年3回程度実施している。参加している21施設中12施設でちょこっと公開保育を実施し、施設種別の垣根を越えて保育を参観し合ったり、参観したことを報告し合ったりすることで施設同士の横のつながりをつくるとともに、各施設のミドルリーダーの育成を図っている。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 大阪府豊中市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

公立・民間共通の保育環境評価ツールとして『豊中市教育保育環境ガイドライン』を平成31年（2019年）に策定。この『ガイドライン』に基づいた研修を毎年実施（第1～3回）。第2回は公開保育を公立園、民間園、小規模施設などの複数園で実施し、大阪府幼児教育アドバイザー認定者が中心となってグループワークで学びを深めている。幼保こ小の各教職員の合同研修を実施。現場の課題に応じたテーマを設け学び合っている。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 豊中市教育保育環境ガイドライン研修（第1～3回）を実施
- ・ 幼保こ小連絡協議会を年2回、校区連絡会を年2回、幼保こ小夏期研修会（合同研修）を年1回実施
- ・ 豊中市幼児教育サポートセンターにおいて、幼児教育サポーター（アドバイザー）による園の巡回指導、園からの依頼によるアドバイザー派遣を実施

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保こ小連絡協議会夏期研修会の様子＞

- ・ 就学前施設の公開保育を実施
- ・ 公開保育後に校園所の職員がグループになり意見交流

＜第2回豊中市教育保育環境ガイドライン研修（公開保育）の様子＞

- ・ 公立こども園、民間こども園、民間保育所（乳児施設）の3園で実施
アドバイザー認定者がファシリテータとなりグループワーク（評価と気づき）を実施



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 大阪府八尾市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本センターで実施している幼児教育研修については、公立私立や施設類型にかかわらず、市内全ての就学前施設に案内をしている。また、幼児教育アドバイザーフォローアップとして、現場のニーズに沿った研修の企画・運営も担っている。

公立こども園の幼児教育アドバイザーによる、他園の採用3年目保育教諭園内研修への指導助言を実施し、様々な学年での指導助言の経験を積み重ねている。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育研修、幼保こ小合同研修の開催
- ・ 園内研修等への講師派遣（園内研究会、事例研究会、園内学習会、保育力アッププロジェクトなど）
- ・ 幼児教育研究（保育公開、研究討議、研究報告会、研究冊子の作成など）
- ・ 特別支援教育・保育巡回指導（巡回実施園の半数にフォロー巡回を実施）
- ・ 『様々な遊びの中で健やかに育つ子ども』の実践フォト&事例の募集

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保こ小合同研修会の様子＞

年間、全4回の研修を企画している。第3回では1時間で完成できる作成物をグループワークで行っている。今年度は、中学校区の13班に分かれ、『交流計画試案』を作成した。どんな交流をしたいか、どんな交流をして子どもたちの育ちにつなげたいかなど、異校種同士で話し合うからこそ感じる、共感したり違いを知ったりすることができた。この研修をきっかけに実際の交流へつながった班もあった。



小学校、就学前施設の所管課とも連携し、施設見学やグループワークを見直し、架け橋プログラムのきっかけとなる研修を企画していきたい。

＜幼児教育アドバイザーによる企画研修の様子＞

現場での悩みを聞き取りながら、今年度は保育経験7～12年目を対象とした。子どもたちが遊んでいる様子の写真や動画を見ながら、保育をどう組み立てていくかを一緒に考え、保育実践での「これでいいのかな？」を「これでいいんだ！」と思えるように、幼児教育アドバイザー4人で意見を出し合い、協力して研修を企画した。

当日は、参加者の様子を見て、学びにつながっていることがわかり、幼児教育アドバイザーとしての意欲が高ま



り、自信になった。

＜特別支援教育コーディネーター研修（就学前）の実施＞

私立園でも特別支援教育コーディネーターを配置することになり、特別支援教育に対する関心が高まっている現状があった。今年度より、「特別支援教育コーディネーター研修（就学前）」を企画し、①就学前施設における特別支援教育コーディネーターの役割について、②気になる子どものスムーズな就学に向けての２本立てで実施した。参加者からは、「当たり前を見直す機会になった」「同じ立場の人と共感でき、不安が軽減した」と感想があった。引き続き、参加者のニーズに応じた内容も取り入れ、実施していきたい。

＜特別支援教育・保育巡回指導の拡充＞

保育サポートを実施する就学前施設に対して、年１回だった専門家による特別支援教育・保育巡回指導が、実施する施設の半数にフォロー巡回指導を行うことになった。これまで、年１回だったが、年度内にもう１回実施できたことは、支援を必要とする子どもへの援助のあり方や具体的な場面での見取りを通した支援の充実につながった。

＜市長部局、小学校教育との連携＞

教育委員会事務局の教育センター（幼児教育グループ）と市長部局の幼児教育担当課（３課）のメンバーで毎月会議を実施し、研究や新任研・３年目研の内容の共有、こども園に関すること、市の施策などについて話し合い、幼児教育の発展・推進を図る機会としている。また、本センターとしては、『教育センター所報』に乳幼児期の遊びがどのような学びの芽生えにつながっていくかを『そだちのねっこ』として掲載している。０～５歳児のエピソードを通して幼児教育の奥深さ・楽しさを発信し、小学校以降の育ちや学びにつながっていくこともねらっている。『教育センター所報』は、各小・中学校へ配付とともにホームページにも掲載している。

https://www.city.yao.osaka.jp/kosodate_kyouiku/kyouikuiinkai/1006135/1006269/1006292/1006299.html

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：大阪府箕面市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

- 公立・民間を問わず、市内保育士・幼稚園教諭・保育教諭等の子ども理解力・実践力・連携力の向上を図るためのコーディネーターの役割を担う組織として「保育・幼児教育センター（以下、「センター」と言う。）」を設置している。
- センターでは、市内全ての保育・幼児教育施設を対象とした巡回訪問や研修会・研究部会を通して、保育・幼児教育全体の質の向上を目指している。さらに、配慮を必要とする子どもへの支援の充実、小学校教育との円滑な接続などのテーマにも取り組んでいる。

【令和6年度における主な取組内容】

- ①巡回訪問（市臨床心理士と保育・幼児教育サポーター（本市が巡回訪問等を行うために委嘱した「幼児教育アドバイザー」の呼称。以下同じ。）が市内保育・幼児教育施設を訪問）
- ②民間園在籍の幼児教育アドバイザー2名を新たに保育・幼児教育サポーターに任命
- ③市内保育・幼児教育施設の職員を対象とした保育・幼児教育等にかかる研修会の企画・実施
- ④幼保小の接続に係る研究・討議・研修の実施 ⑤支援保育・教育研究部会の開催
- ⑥幼児教育アドバイザー交流会の開催 ⑦就学前保育・教育カリキュラムの普及

【取組内容の具体的な事例】

＜巡回訪問の様子（市臨床心理士同行）＞

- ・専門的な知識や豊富な実務経験を持つ「保育・幼児教育サポーター」と臨床心理士が市内保育・幼児教育施設を訪問し、保育・幼児教育の内容等の相談に対して、現場の考えに寄り添い、課題についてともに考え、解決に向けたサポートを実施。令和7年1月からは民間園在籍の幼児教育アドバイザー2名を新たに保育・幼児教育サポーターに任命し、民間園ならではの視点でも助言できるようになった。

＜幼保小の接続に係る研究・討議・研修の実施＞

- ・令和5年度に作成した架け橋期カリキュラム（素案）の実践・検証にあたって、学識経験者の助言のもと公立・民間の保育者と小学校の教職員が保育・幼児教育と小学校教育について意見交換等を行い、架け橋期カリキュラムの策定に至った。又、保幼小合同研修会を開催し、小学校と保育・幼児教育施設の職員が互いの教育の語り合いを通して、ともに相互理解



を図り、学びあった。

＜研修での公開保育の実施＞

- ・研修等に公開保育を取り入れ、公立園・民間園ともに公開保育を実施した。参加者は他園の具体的な取組を見学することができ、公開園においても自園にはない視点で助言をもらえたことは有意義であったと感じており、互いにとっての学びとなった。

＜支援保育・教育研究部会の開催＞

- ・公開保育やグループワーク等を通して活発な意見交換を行い、支援を必要とする子どもへの理解と合理的配慮、個別の指導計画の作成等について学ぶことができた。又、講師（大学教授・臨床心理士）から支援の悩み等についての的確なアドバイスをもらい各々の支援保育・教育の実践に活かすことができた。

＜幼児教育アドバイザー交流会の開催＞

- ・市内保育・幼児教育施設に在籍している幼児教育アドバイザーが集まり、幼児教育アドバイザーとしての取り組みや悩みなどを話し合った。幼児教育アドバイザー同士がつながり、園内研修や保育の現状など様々なことを交流し、互いに学び合う機会となった。

＜就学前保育・教育カリキュラムの普及＞

- ・令和5年度に策定した「箕面市就学前保育・教育カリキュラム」について、監修者である大阪総合保育大学 瀧川光治教授による解説を令和6年度保育研修会としてオンデマンド配信した。また、新年度のカリキュラム編成やカリキュラム・マネジメントに活用できるよう、令和7年3月に再配信を行った。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 兵庫県伊丹市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

R2のセンター開設以来、幼児教育アドバイザーが市内約80か所の全公私立就学前施設（認可外を含む）について1施設あたり年間3回を目標に訪問。他、研修、相談事業等の取り組みにより各施設との信頼関係が育まれ、民間施設からの訪問依頼が昨年度より倍増するなど、各施設のニーズや課題に応じたアドバイスを行った。また、本市の課題である幼小接続に対する理解促進を目指し、研究に取り組んだ。

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育アドバイザーによる就学前施設訪問事業
- ・ 架け橋期の教育・保育のあり方について研究
- ・ 「伊丹市 架け橋期のカリキュラム(5歳児版)」の策定
- ・ 学校教育課と連携した担当者会や研修の開催等、幼小接続の推進
- ・ 各種研修会、幼児教育シンポジウムの企画、開催

【取組内容の具体的な事例】

＜1年生授業観察の様子＞

幼児教育センターにおいて架け橋期の教育・保育のあり方について研究を行った。伊丹市立南小学校1年生の1年間を追跡し、架け橋期5歳児に必要な経験を「伊丹市・架け橋期のカリキュラム(5歳児版)」として可視化。



1年生の実態から、架け橋期の5歳児において特に必要な経験として、①5領域のバランスのとれた経験②体験を通して感じたことや考えたことを表現する経験③好奇心や探求心をもち試行錯誤する経験④友達とつながり協同する経験が大切であることがわかった。

＜伊丹市幼児教育シンポジウムの様子＞

市内外から340名余りの参加。鳴門教育大学 佐々木晃教授を迎え、「小学校以降の学びを見通し、架け橋期の幼児教育を振り返る」をテーマに、市内小学校教諭・幼児教育施設職員による実践発表を行った。併せて幼児教育センターによる研究発表、総合教育センター所長による講話「1年生の授業・教科書について」、カリキュラムの周知を行った。幼児期の遊びを通した学びから小学校以降の自覚的な学びへと、学び方は子どもの発達段階により変化はするものの、幼児期から児童期への学びはつながっていることを再確認した。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 兵庫県宍粟市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

宍粟市には公立施設が6園所、民間施設が9園所ある。市としては、令和6年度に幼児教育と義務教育の分野が一体となった宍粟市総合教育センターを開設し、幼児教育アドバイザーを配置のもと、幼児教育の分野では、教育内容及び指導方法等に関する調査研究、保育者やアドバイザーの研修機会の提供、子育てや育児に関する相談、幼児教育施設に対する訪問指導、助言等を行っている。また、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指して教育内容の相互理解を図っているところである。

【令和6年度における主な取組内容】

1. しそう幼児教育支援事業における教育・保育に関する課題の研究
 - ・ しそう幼児教育支援委員会の開催（令和6年7月1日、令和6年12月13日）
2. 園所への定期的訪問、要請訪問
 - ・ 公立園の管理職研修会の実施（令和6年5月30日、6月11日）
 - ・ 民間園の公開保育参観及び指導助言（令和6年6月28日、10月28日、11月12日、11月26日、12月5日）
 - ・ 放課後児童クラブ訪問、職員面談及び助言（令和6年12月5日、12月9日）
3. 市指定の幼児教育研修会の実施
 - ・ 6年度は実施なし
4. 中学校パートナーシップ事業における幼、保、こ、小、中の接続及び連携
 - ・ 宍粟市学校園所合同会議の開催（令和7年3月12日）
 - ・ 中学校区ごとにおける公開保育参観、教職員間の合同研修会の実施（随時）
5. 特別な支援を必要とする児に関する教育・就学支援
 - ・ 特別支援教育研修会の実施（令和6年5月23日）
 - ・ 教育支援委員会の開催（令和6年8月2日、令和6年9月30日）
 - ・ 特別支援教育・保育会議の開催（令和7年2月17日及び必要に応じて開催）
6. 公立園所の ICT 環境整備とシステム活用支援
 - ・ 登校園管理、保護者との連絡ツール、教材として ICT の活用（令和6年12月～）
7. 研修会の計画・実施
 - ・ 公立園所における学年別研修会の実施
（令和6年5月23日、6月14日、9月4日、10月30日、11月12日）
 - ・ 総合教育センター事業、ライフステージ別研修会の実施（令和6年8月26日）
 - ・ 総合教育センター事業園所研修、絵画研修会の開催（令和6年7月9日）

8. 架け橋プログラムの作成

- ・アプローチカリキュラム作成に向けた検討会の実施（各園の実態に応じて実施）
- ・カリキュラム見直し検討会の実施（各園の実態に応じて実施）

【取組内容の具体的な事例】

＜1. しそう幼児教育支援委員事業における教育・保育に関する課題研究＞

しそう幼児教育支援委員会を開催し、第1回は研究園において公開保育を参観、幼児理解に基づく環境の再構成と教師の援助について協議を行った。また、幼児期と児童期の円滑な接続に向け、ドキュメンテーションで子どもの学びを可視化し、3つの資質能力や10の姿で育ちを捉え、小学校教諭と教育内容について相互理解を図った。幼児の主体性を大事にした教育・保育を行うことを再確認したが、保育者の学びの捉えの曖昧さや小学校教諭には幼児教育とのつながりが見えにくいという課題が見られたので、今後も研修を継続したい。



第2回は実践発表を通して保育者の資質向上を図る園内研修の在り方について協議を行った。職員間で多面的に子どもの姿を捉えることが、次の指導の手立てに役立つことを再確認するとともに、デジタル機器の活用が有効であることも共通理解できた。職員間で保育を語ることは質の向上につながるため、今後も園内研修の充実を図りたい。

＜2. 園所への定期的訪問、要請訪問＞

公立園所においては幼児教育アドバイザーを中心に自主研修を行い、教育課程の見直し、発達を踏まえた期の捉え方や月、週、日の指導計画及び保育記録の書き方について協議するとともに助言を受けた。考え方を整理したことで保育者の意図（なぜそうするのか）と行為（どう育てたいか）を具体的に書くなど職員間で再確認できた。また、民間園及び放課後クラブにおいては、要請に応じてアドバイザーが訪問し、保育の指導助言や職員と面談を行った。これを機に今後も積極的な働き掛けを行いたい。



＜7. 研修会の計画・実施の様子＞



総合教育センター事業として、就学前教育・保育を一層充実させるため、学識経験者を講師として招き、公立施設の主任及び管理職でライフステージ別研修を実施した。参加者はドキュメンテーションを持ち寄り、子どもの育ちを捉える視点について協議するとともに指導助言を受けた。どの視点でまとめるか、大事にしたいことを明確にするなど書き方や活用方法について学ぶことができた。絵画研修会においては、子どもの絵の見方や絵を通した発達の捉え方について講演を聞き、実際の作品を見ながら指導を受けた。絵を通して発達段階が見えてくることを再確認したので、絵画活動では一人一人の発達に応じた関わり方を工夫したい。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 兵庫県西脇市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

市内の幼児教育施設は、私立幼保連携型認定こども園（8園）のみである（無認可保育施設を除く）。幼児教育センターには、4名の幼児教育アドバイザーが在籍し、各園のニーズに応じた現場巡回訪問を行うとともに、市内全ての園の教育・保育の質の向上に向け、課題別に研修を計画実施している。また質の向上推進委員による視察訪問等、第三者評価も継続している。

園小接続の推進にも力を入れており、接続カリキュラムの作成・運用・検証及び、園小職員の合同研修の実施、相互参観により交流や相互理解も進めているところである。

【令和6年度における主な取組内容】

- (1) 幼児教育アドバイザーによる現場巡回訪問（保育内容）の実施
- (2) 私立認定こども園への質の向上推進委員による指導・助言（視察訪問）
- (3) 課題別研修会・公開保育の実施（教育・保育内容、園小架け橋、特別支援教育等）
- (4) 幼児期の教育と小学校教育の滑らかな接続の推進
（園小接続カリキュラム研究委員会・園小交流訪問・園小職員合同研修会 等）
- (5) 特別支援教育と保健・福祉事業との連携・共通理解
（幼児教育センター・学校教育課主催の特別支援学校支援部コーディネーターによる巡回相談や福祉部局主催の臨床心理士による巡回相談に同行、幼児教育センター主催の特別支援学習会の開催）

【取組内容の具体的な事例】

＜(1) 現場巡回訪問（保育内容）の様子＞

昨年度と同様の幼児教育アドバイザーが2名体制で訪問したことでより信頼関係を築くことができ、園職員から気軽に困りごとについて相談していただけた。園の特色や保育の方法等を尊重しつつ、子どもたちにとってより良い保育につながるよう助言した。園内研修も講師や参加者として支援することができた。 訪問回数:52回



＜(2) 質の向上推進委員による指導・助言（視察訪問）の様子＞

西脇市就学前教育・保育カリキュラム（市内共通カリキュラム）の内容に基づいた自己評価・園評価を基に、委員の先生方に各園を訪問いただき（年2回）評価内容ごとに助言をいただいた。各園の課題を明確にするとともに、良さを生かした保育の推進のためのアドバイ



スをいただけたことで、園の先生方の意欲が増すとともに、自園の質を向上させていくためのサイクルを回すことへの意識が高まってきている。

<(3) 課題別研修会・公開保育の様子>

課題別に「乳児担当」「幼児担当」「主幹教諭・管理職」「全職員」と対象者を分けることで、「今学びたい内容」が学べる機会となった。



また年2回、同じ園が公開保育をした。保育を公開し、参加者や講師の先生から保育内容について認められることで、職員全体の意欲が増し、「質向上に向け協働してやっていこう」という雰囲気が広まった。また指導案等の作成についても試行錯誤される姿が見られ、今後に生かせる力が身に付いてきた。

<(4) 幼児期の教育と小学校教育の滑らかな接続の推進の様子>

① 知る・見る（園小相互交流訪問）

こども園職員が入学後1カ月経た児童の様子を参観し、小学校の夏休み期間中、主に小学校1年生担任と管理職がこども園を訪問し参観した。互いの保育・教育を実際に見ることで、それぞれのねらいや環境等の工夫を知ったり、子どもの姿から理解を深めたりする機会となっている。



② 研修・学ぶ（園小職員合同研修）

園小の職員が合同で研修を受ける機会を設けた。市内のどの小学校からも参加があり実際の子どもの姿を基にして話し合いを進めることができた。対話することで互いの保育・教育についての理解が進み、気軽に話ができる関係づくりにもつながっている。

③ 仕組み作り（カリキュラム）の取組

（認定こども園・小学校接続カリキュラム研究委員会）

年2回の委員会を開催した。作成した接続カリキュラムの運用、検証、改善に向け、委員で協議を行い、より良いカリキュラム運用に向けて試行錯誤した。

<(5) 特別支援教育と保健・福祉事業との連携の様子>

特別支援学習会では、学校教育課指導主事と小学校通級担当教諭から就学先を決める際に参考となる話を聞いたり、2回連続で同じ作業療法士の研修を実施し、療育に使える手作りの玩具や道具について、実際に手に取りながら教えていただいたりした。学校園職員と市職員が共に発達支援等について学ぶことで、共通理解を



図ることができた。また福祉部局が所管する臨床心理士が行う巡回相談にも同行し情報共有、共通理解することで切れ目のない支援が行えるようにしている。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 奈良県奈良市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市では、中堅層の保育者の不足や若手職員の増加、園の小規模化・単学級の増加により教育・保育の共有や技術の継承が困難な課題があったため、教育・保育に関する指導的役割の中核を担う現役副園長を対象とした「幼児教育アドバイザー育成プログラム」を開発した。幼児教育アドバイザーの主体的な学びと循環的な学びを構築する「育成しつつ活用する」人材育成体制の構築を推進し、その深化と充実を目指し取組んでいる。

【令和6年度における主な取組内容】

【人材育成の循環を目指した研修体制の充実】

- ・「奈良市保育教育士育成指標」を活用したステージ別研修の実施
- ・幼児教育アドバイザーの育成と活用

【「社会に開かれた教育課程」の実現を目指した教育・保育の発信】

- ・「奈良市保育教育士育成指標 ～行動版～」の作成
- ・幼児教育アドバイザーの語りの分析

【取組内容の具体的な事例】

＜「奈良市保育教育士育成指標」を活用したステージ別研修の様子＞

幼児教育アドバイザーが「奈良市保育教育士育成指標」を活用し、受講者が身につけるべき資質・能力を考慮しながら、アクティブステージ研修（経験年数4～10年）・ミドルステージ研修（経験年数11年～）の企画・運営を行った。両ステージ共に、往還的研修を取り入れ、アンケート内容を活かすことで、受講者は身に付けたい資質・能力に応じた研修を受講することができ、研修の学びが自園での実践につながるものとなった。また、幼児教育アドバイザー自身も、各ステージに応じた研修を企画・運営する資質・能力の向上となった。



＜「奈良市保育教育士育成指標 ～行動版～」の作成＞

これまでの本研究において、各ステージでどのような資質・能力の習得をめざすかについて明確にすることを目的として、幼児教育アドバイザーが「奈良市保育教育士育成指標」の作成を行った。しかし、各園において自己評価への活用が十分でないという課題が明らかになった為、今年度は「奈良市保育教育士育成指標 ～行動版～」の作成を行った。各ステージの職員から意見を集め、指標内の目標を達成するためには、どういった行動ができるのか、現場の職員から具体的な意見を集めた。それらを一覧にまと

め、理念のみならず実践することを明記することにより、様々な世代の保育者が資質向上や自己評価に活用できるようにした。

<実践検討会における幼児教育アドバイザーの語りの分析>

これまでに育成した幼児教育アドバイザーである各園の副園長も共に学び資質向上につなげる機会となるよう、実践検討会を開催した。不安や悩みを出し合ったり、協議方法について検討したりすることで、今後の実践につながる学びとなった。また協議内容を文字に起こし検証を行った。複数のカンファレンスで共通して語られていた内容から、副園長たちが子どもの姿から育ちや学びについて見取る視点や、子ども理解を深めるポイントが明らかになった。幼児教育アドバイザーがそれらを「子ども理解」「環境」「援助」「司会進行として大切にしている事」の4項目に集約し「子ども理解へのポイント」としてまとめた。今後各園の実践において活用していくこととする。



<こ保幼小合同研修の様子>

幼児教育の要素を小学校教育につなげていくために、こういった視点で子どもの育ちを捉えて相互理解を進めていけばよいか、また接続期のカリキュラムについて講演をしていただく。その後、幼小の職員が子どもの姿について語ると共に幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿で捉え、姿から見える学びについて共有するグループワークを行った。小学校教員と共に子どもの姿について語る機会がなかなかもてていない現状がある中、参加者からは互いの考えについて知る機会となったとの声が多く聞かれ、子どもの育ちをつなぐ相互理解の第一歩となった。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 岡山県玉野市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

教育委員会が域内すべての就学前教育園を管轄し、教育委員会内に就学前教育センターを設置し、就学前教育職員を指導する就学前教育アドバイザー2名を配置

- ・ 幼稚園（公立5園、私立なし）
- ・ 保育所（公立4園、私立3園）※私立3園はすべて同じ法人が運営。
- ・ 認定こども園（公立5園、私立なし）※すべて保育所型の認定こども園。

【令和6年度における主な取組内容】

- ① 公私立幼保全17園への園訪問を実施（事前訪問、事後フォローアップを含む。）
- ② 若手職員（新採用～3年目の職員）への園内研修や巡回訪問指導の実施
- ③ 多種多様な研修会（参集及びオンライン）の開催
- ④ 園小連携の取組の推進
- ⑤ 県及び県内自治体への情報発信及び情報共有
- ⑥ 県内外の先進地視察（幼・保・こ園・小学校等）

【取組内容の具体的な事例】

上記①：公私立幼保全17園への園訪問を実施

＜右上段の写真：園訪問の様子＞

各園の園訪問時には、他園の職員も希望参加できることで、お互いに刺激を受ける機会となり、全園職員の意識改革や、保育のレベルアップが図られている。



上記②：多種多様な研修会の開催

＜右中段の写真：研修の様子＞

1～3年目の幼稚園、保育園、こども園の職員対象に合同の若手研修会を実施した。研修ビデオを視聴し、子どもの読み取りに視点をあてた意見交換や情報交換を行い、保育への理解を深めるとともに人間関係づくりにもつながった。



上記③：園小連携の取組の推進 関連

＜右下段の写真：園小連携、保育参加の様子＞

小学校区単位で相互に訪問を実施する中で、小学校教員が園の保育へ参加した。保育参加を通して、互いの保育・教育に対する相互理解が深まり、人間関係の構築ができるとともに、園小連携の必要性の意識が高まっている。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 岡山県高梁市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

急速に進む少子化により、小規模園も増え、学校園の統廃合が進んでおり、少人数での活動の中での学びを充実させるために教職員も苦慮している現状がある。

幼稚園籍の指導主事を配置していない代替として、就学前教育アドバイザーを2名配置し、それぞれの園がもつ課題解決に対する支援と架け橋プログラムの実践に向けて取組んだ。

【令和6年度における主な取組内容】

- ① 令和7年4月開園予定の高梁こども園開設準備と体制整備
- ② 園、小学校（1年生授業参観）への計画訪問、園要請訪問
- ③ 架け橋プログラム推進のための園小接続担当者研修会開催
- ④ 高梁市架け橋期のカリキュラム開発会議開催
- ⑤ 研究会の推進

【取組内容の具体的な事例】

＜② 園、小学校（1年生授業参観）への計画訪問、園要請訪問＞

園及び小学校への計画訪問、園への要請訪問の実施することにより、園の現状と課題を知り、それぞれの園の課題に対しての支援につなげた。

- ・ 市内全幼稚園・認定こども園・保育園への各1回の計画訪問（前期：4月～7月）
各1～3回の要請訪問（後期7月～1月）
を実施。
- ・ 5～7月に、市内全小学校（1年生在籍校13校）を訪問し1年生のスタートカリキュラムの授業を参観した。今年度、小学校への計画訪問の際に小学校籍の指導主事も参加。
1年生出身園の保育者等が授業参観し、園小接続の状況や子どもの様子等について情報交換及び協議を行い、接続の一助とした。



＜③園小接続担当者研修会（広域研修会）の様子＞

令和6年12月13日（金）、高梁総合文化会館で近隣市町にも案内を行い、園小接続担当者を対象に架け橋プログラム実践に向けた研修会を企画、実施した。

研修内容は、前年度の県主催就学前教育担当者研修会における実践発表市である赤磐市教育委員会から講師を招き、「赤磐市 磐梨中ブロック 架け橋プログラムの取組」

と題してご講演いただき、これからの取組に生かせる気づきや学びが得られた。

また、事務局より「架け橋期の接続スタンダード及びカリキュラムづくりのポイント」を説明。

グループ協議では、講演と接続アンケートを基に、各校園の実態・課題等を情報交換するとともに、事務局説明の手順・方法及び各小学校区のカリキュラム作りの参考とする高梁市版の接続スタンダード（案）と接続カリキュラム（案）について意見交換した。



＜④高梁市架け橋期のカリキュラム

開発会議の様子＞

今回、上記研修会で提示した高梁市版スタンダード及びカリキュラム（案）については、各小学校、園で確認してもらい、意見募集を行った。研修会で受けた質問や寄せられた意見をふまえて、高梁市架け橋期のカリキュラム開発会議で協議し、高梁市版の接続スタンダードと接続カリキュラムを策定した。来年度は、策定した高梁市版を参考に、小学校区単位で小学校区版の架け橋プログラム作りに取り組む予定。



カリキュラム作りを通して、教育・保育と小学校教育のつながりが深まり、質の向上につながるよう体制づくりを進めたい。

＜⑤研究会推進の様子＞

市教育委員会が令和6年度から2年間、就学前教育保育課程研究園に川上こども園を指定し、「架け橋期の園小接続」を研究主題とした研究の取り組みに対し、本市就学前教育アドバイザー及び岡山県幼児教育センターの就学前教育スーパーバイザーによる訪問指導による支援を行った。



研究会を受けた園では、課題意識を持って、日々の教育・保育にあたり、研究実践を通して、組織の活性化も見られている。

来年の研究発表会に向けて伴走し、研究成果を市内園と小学校に普及したい。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 岡山県美作市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

就学前施設については、施設類型を問わず教育委員会の管轄であり、相互に人事交流を行っている。研修や会議等すべて合同で行っている。美作市幼児教育目標「きらきら笑顔夢中になって遊ぶ子ども」を掲げ、質の高い幼児教育を目指している。また、幼児教育アドバイザーを平成28年から配置し（元幼児教育担当指導主事・小学校校長）、適切な指導を通して市の幼児教育の質の向上や幼小接続が着実に進んでいる。

【令和6年度における主な取組内容】

1 継続した幼小接続の取組から「架け橋プログラム」へ

今までの幼小接続の積み上げを活かし接続の質を改善することにより、「架け橋プログラム」へつなぎたいと考え、大原小学校区を市の研究指定にし2年目を終了した。

2 保育の質の向上

本市独自の初任研をH28年から実施している。保健福祉部局と連携した研修や現代的課題に即した研修を実施し、初任者の資質向上を目指した。また、県指定（人権教育）を受け公開保育・研究発表として県下に発信した。園内研修の充実とともに保育の質向上につながった。

【取組内容の具体的な事例】

【令和6年度における主な取組内容】

1 継続した幼小接続の取組から「架け橋プログラム」へ

接続の質を改善するには、幼小相互の共感的理解が欠かせない。そのために本市では子どもの交流だけでなく教職員の合同研修、5歳児担任の小1の授業参観、小学校教員（1年担任は悉皆）・美作市小中学校新規採用教員の就学前施設での保育体験研修を継続している。また、小学校区ごとにスタートカリキュラムを合同作成し、子どもが安心して自己発揮しながら生き生きと学校生活がスタートできるように工夫もしている。

＜幼小連携・接続授業公開研修会＞

令和6年6月6日実施（指定校）

5歳児担任が1年生の授業参観。今年度は市内1年担任も参加し研修を深めた。

子ども主体でスムーズに授業展開され、教師は伴走している。温かい学級集団の中で一人一人の子どもが各自自己発揮しながら楽しく学び合っている授業を参観した。

研修では学校長の話や接続担当者の（「架け橋プログラム～よりよい接続を目指して～」）実践発表や協議を通して滑らかな接続から「架け橋」への理解を深めた。参加者からは、「子どもが生き生きと主体的に活動する場面が見られ、幼小連携の積み重ねの成果だと感じる。」「子どもに委ねながら必要な部分は的確に押さえる教師の指導があ

る。」等、幼児教育の質向上の重要性とそれを受け取る小学校側の学びの質の重要性を再確認した。

＜小中学校新規採用教員保育体験研修の様子＞令和6年8月7日実施



研修では、幼児教育アドバイザーが幼児教育や連携・接続についてパワーポイントによりプレゼンテーションした。保育体験（遊び・振り返り）後、Yチャートを使用しどんな力が育っているか「10の姿」を基に協議したり、今後の授業や学級経営に活かせることについて振り返ったりした。

参加者は、子どもが自ら考えたいくなる仕掛けを授業に組み込む大切さ等を体感し、個別最適な学びと協働的な学びのヒントを幼児教育の中に見い出すことができた。このような地道な取組を継続することが共感的相互理解の推進となり、幼小の円滑な接続や小中の接続にも発展するものと考ええる。

2 保育の質の向上

＜保育の質の向上 県指定（人権教育）公開保育・研究発表会＞

令和6年11月8日 むさしこども園で実施。県下の保こ幼小から100名の参加が



あった。「子どもと自然をつなぐ人権教育～いのちと出会い育つ心～」のテーマで人権感覚の基になる自尊感情の育成を目指した。テーマに迫るために視点を明確にして研究を進めた。「質の高い保育は人権教育そのもの」との高い評価をいただいた。県下に成果を広め情報発信する機会となった。

＜保育の質の向上 市独自の初任者研修の様子～＞

令和6年5月28日・6月13日・令和7年2月10日 園外研修実施

新採用保育士等を対象とした研修は、施設類型を問わず年6回（園外3、園内3）実施している。

園外研修では、「美作市の幼児教育」のプレゼン、人材育成指標の説明、保健福祉部局と連携した「個別の支援計画や支援シート」の作成についての心理士の講話等を行っている。また、公開保育（全学年公開）を参観することにより保育の実践力を高める機会も設けている。また、現代的課題である保護者対応や特別支援教育についても実践的研修を実施している。「美作市保育士等人材育成指標」を基に各自振り返る機会も設けている。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 岡山県備前市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

備前市は、こども園10園（内分園1園）がすべて公立園である。現在の研修体制としては、自主的研修組織と幼児教育課が主催する研修があるものの系統だった体制になっていない。資質向上のためにも、研修体制の構築が必要であると考え、幼児教育教育アドバイザーとして講師を招聘した。接続に関しては、接続マネージャーの設置とともに、担当課で話し合いの時間をもち合同研修を実施した。

【令和6年度における主な取組内容】

- 研修体制構築のための取組
 - 特別支援に関する研修・幼児理解に関する研修・メンタルヘルス研修の実施
- こども園・小学校・中学校の円滑な接続を図るための取組
 - こ小中合同研修会の実施

【取組内容の具体的な事例】

＜研修会の様子＞

- 特別支援に関する研修
 - ・ 特別支援に関し日々アップデートされていく中、理論的知識の不足は否めない。そこで、3年計画で理論的研修を積み重ねることで、理解を深め実践につなげていくことを目的として研修会を実施した。
 - ・ 「幼児期の気になる子どもへの包括的発達支援～保育者における発達障害への専門的理解と実践の積み上げの必要性を踏まえて～」ということで、1年目基礎編・2年目専門編・3年目応用編で実施。
 - ・ 日々のかかわりを振り返り、保育教諭の支援が先行することなくこどもが必要としている支援は何か、こどもに合わせた支援の必要性を再確認する機会となった。
- 幼児理解に関する研修
 - ・ 参加者は経験年数が3～5年23人、中堅教諭24人自由参加枠を設けることで、主体的に学びたいという保育教諭の学びの確保もした。
 - ・ 講義を聴くだけでなく、ワークショップ形式で実施し、自分の考えや思いを言葉にしながら学びを深められるようにした。
 - ・ 事例を通した研修だったことで、具体的な対応がイメージしやすかったように



思う。見守る・寄り添うという言葉は日頃も使うことはあるが、実際にどういうことなのか、そこに意図が含まれているかどうかなど、学びになったように感じる。

＜こ小中合同研修会の様子＞

- ・ 市内の認定こども園と小・中学校の円滑な接続を図るため、まずは担当課で話し合いの機会をもった。その中で、こども園の保育参観と協議という内容で合同研修会を実施した。
- ・ まずは、職員同士の「つながり」をつくるとともに、保育と授業との「つながり」を感じることをテーマとした。保育参観のキーワードを「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」「学びを委ねる」とし、参加者は持参したIC端末で保育の様子を撮影し、その写真をもとに協議を行った。
- ・ 協議1：グループごとに参観中に撮影した写真をGoogleスライドで共有し、環境構成や教師のかかわりについて話し合いコメントを入れる。

先生と一緒に遊んでいることにより、遊び方のモデルがあってよかった！正しい知識の習得があるからこそ、「もっと考えてみたい！」「私もやってみたい！」「私はこんなふうにやってみよう！」「という思考力や表現力に繋がっていくのだと思う！



先生が「昨日水を入れすぎたよね。今日はどうしようか」と子どもに尋ねることで、「水を少なくしてみる」と子どもに考えさせる言葉をかけられていた。

- ・ 協議2：協議1での話し合いをもとに、校種ごとの立場に置き換えて保育と授業のつながりについて話し合う。
 - キーワードをもとに、環境構成・事前準備・声かけの視点でこども園⇒小学校⇒中学校のつながりについて話し合う
 - 違うグループの書き込みを共有しながら進める

【A1グループ】「学びをゆだねる・自己決定させる」ための具体的な保育・指導のあり方			
	こども園	小学校	中学校
環境構成	子どもの興味関心に合わせて環境構成を行っている。	子どもが興味関心を示すような環境構成を行う。心がける。	数学…身近なもののから数的な式に持っていけるような、道具作り。日常に繋げる。動画やカード
事前準備	職員同士で必要な物、必要でないものなどの話をしていく。	児童の活動…学びを深める為の学習資料やワークシートの作成	ワークシート、定着をさせるための道具。トランプ
声かけ	あえてたくさん声をかけず、待つ		
見守り			
その他			

- ・ 参観のキーワードがあったことで、興味深く参観したり、子どもの声に耳を傾けたりする姿が見られた。「通ずるものを感じた」と感想にあったが、それぞれの校種を重ね合わせながら参加・協議ができたことで、遊びの中での学びと学習での学びのつながりを感じる研修となった。また、他校種間での協議をすることで、違う視点に気づき視野を広げる機会にもなった。
- ・ 「架け橋プログラム」という共通の課題で、担当課が話し合いの機会を持つことができたことが成果である。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 広島県広島市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市では、市長事務局（こども未来局）と教育委員会事務局が連携・協力して広島市乳幼児教育保育支援センターを運営している。33人の乳幼児教育保育アドバイザーを配置し、関係団体等と連携しながら、私立・公立を問わず、市内全ての幼稚園・保育園・認定こども園等を対象として、幼児教育・保育の一体的な質の向上に向けて取り組んでいる。

【令和6年度における主な取組内容】

- 1 乳幼児教育保育アドバイザーの育成・派遣
- 2 乳幼児教育保育の質の向上に関する懇談会、人材育成のための意見交換会の開催
- 3 本市内の私立・公立の幼稚園・保育園・認定こども園等の職員を対象とした各種研修会の実施
- 4 公立の幼稚園・保育園が連携した公開実践（公開保育）の実施
- 5 市立幼稚園における実践研究及びその成果の普及・就学前のこどもを持つ保護者に対する子育て支援
- 6 広島県乳幼児教育支援センターとの連携 等

【取組内容の具体的な事例】

＜幼稚園・保育園・認定こども園等施設長等合同研修会＞

本市内の幼稚園・保育園・認定こども園等において、その運営に関わる施設長等が、一堂に会して、幼児教育や保育の提供に必要な視点やこどもに関わる大人が立場を超えて連携する幼保小の架け橋プログラムの考え方等について共有した。

講話：「魅力的な園づくりとは」－職員同士が保育を楽しみ、成長し合い、安心して働き続ける職場となるために－

講師：渡邊 英則 氏

学校法人渡辺学園 港北幼稚園・認定こども園ゆうゆうのもり幼保園

理事長・園長

【講師：講演の様子】



【参加者：グループワークの様子】



＜乳幼児教育保育アドバイザーを活用した幼保小接続の取組＞

乳幼児教育保育アドバイザー派遣制度を活用する小学校と、その近隣に所在する幼稚園・保育園に乳幼児教育保育支援センターが働きかけ、小学校及び幼稚園・保育園の職員がこどもの姿を中心に置いて、幼保小接続の取組を実施した。

小学校の授業の様子を近隣の幼稚園・保育園の職員が参観した後、幼稚園・保育園・小学校の職員がこどもの姿を基にして幼保小接続に関する協議を行い、アドバイザーの助言を受けた。

また、この取組を年度前半・後半の2回に渡り実施したことにより、幼稚園・保育園・小学校の職員は、小学校教諭の指導と児童の姿の変容を確認し、接続期のこどもの発達や特徴、園と小学校の生活の違いや、それらを踏まえたこども理解等について、より一層学びを深め、幼保小接続に関する視点について共通認識することができた。

【授業参観の様子】



【協議及び助言の様子】



＜乳幼児教育保育支援センターの広報＞

乳幼児教育保育支援センターの取組等を情報発信するため、「乳幼児教育保育支援センターだより」や「園内研修情報」を作成し、ホームページや電子メール等により本市内の幼児教育・保育施設、小学校等へ周知した。

【園内研修情報】



「園内研修情報」では、幼稚園教諭・保育士等に対する人材育成について専門的見地から幅広く意見聴取する「人材育成のための意見交換会」において聴取した意見を踏まえ、多様な幼児教育・保育施設が自園の園内研修について、取組を開始するきっかけとすることや、取組をより充実させる参考となるよう、多様な幼児教育・保育施設における園内研修の取組を紹介した。

また、「乳幼児教育保育支援センターだより」では、乳幼児教育保育支援センターが実施する研修や幼児教育・保育現場で役立つ情報などを紹介した。この中では、近隣の幼児教育・保育施設と連携した小学校の取組についても紹介している。

【乳幼児教育保育支援センターだより】

各号で情報発信した主な内容

第1号	アドバイザー・研修等
第2号	アドバイザー・研修等
第3号	幼保小接続の取組
第4号	研修（幼保小接続）
第5号	幼保小接続の取組
第6号	各種研修
第7号	幼保小接続の取組等

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 山口県周南市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

公立園 16 園・私立園 27 園を抱える本市において設置者・施設類型を越えて保育者の専門性向上を図るとともに、「周南市幼保こ小の架け橋プログラム」の推進により協働した幼児教育推進体制を確立することは喫緊の課題である。そこで、周南市乳幼児教育センターを令和4年度4月に設置するとともに、センター業務を関係機関相互の連携により実践的に推進するため「周南市幼保小の接続・連携による教育・保育充実のための実践的協議会」を年2回開催している。

【令和6年度における主な取組内容】

○周南市幼保こ小の架け橋プログラム合同会議本格スタートの支援

市内公私立園 43 園小学校 27 校全園全校参加の合同会議を原則小学校区を単位として本格スタートするための支援を行い、各合同会議での取組が推進された。

○3名のアドバイザー（幼児教育2・幼保小連携担当1）及び保健師(1)による訪問

延べ訪問回数 304 回（前年度比 20.6%増）

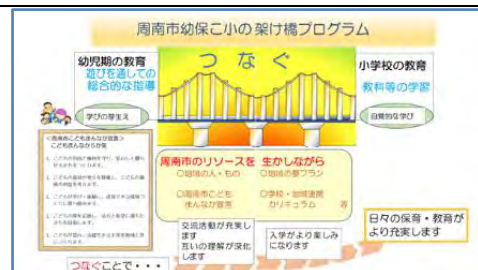
○周南市幼児教育・保育人材育成ガイドラインの改訂

幼児教育・保育の重要性がますます高まっている今、保育者のキャリアステージに応じて必要な資質・能力育成のための研修をアンケートや聞き取りも参考にし策定した。

【取組内容の具体的な事例】

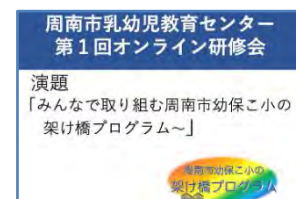
＜共通理解を図るためのリーフレット：周南市
幼保こ小の架け橋プログラム支援資料の作成・
配付＞

本市の強みである「全国初のこどもまんなか宣言」「コミュニティ・スクール 100%」などを生かしながら、各合同会議の状況（園数や規模、小学校との距離等）をふまえた創意工夫した取組推進に資するよう、周南市幼保こ小の架け橋プログラム（※以下架け橋プログラムという）のねらいや年間の取組例、PDCAのための計画表・評価様式等を掲載したリーフレットを作成・配付し、共通理解を図った。



＜参加率 100%：周南市幼保こ小の架け橋プログラムオンライン研修会＞

周南市幼保こ小の架け橋プログラム合同会議（※以下合同会議という）の前に共通理解を図るためのオンライン研修会を開催。本市の開発会議に当たる「周南市幼保小の接続・連携による教育・保育充実のための実践的協議会」のご支援により、全園・全小学校の参加を得て、合同会議をスタートすることができた。



＜市内全域で実施：周南市幼保こ小の架け橋プログラム合同会議＞

市内全域で原則小学校区を単位とする合同会議が開催され、架け橋期のカリキュラム作成のための協議や交流活動内容の計画立案・評価が各合同会議で実施された。



まずは、めざす子ども像を各自が付箋にまとめました。



付箋を貼りながら発表です。「そうですね。」と頷き合う姿が度々見られました。



「ワクワク・ドキドキ」「やさしさ・寄り添う」「前向き・チャレンジ」など付箋に共通する Keyword がたくさん生まれました。

＜コミュニティ・スクールの仕組みを使って地域へ発信＞

架け橋プログラムモデル園による学校運営協議会での発表＞

市内公立園 8 園を架け橋プログラム推進モデル園に指定。今年度は、その中の 5 園が連携先小学校での学校運営協議会での幼児教育についての取組発表を行った。「委員の方がメモをとりながら熱心に聞いてくださった。」「中学校の校長先生から、園との連携を考えていきたいとの声をいただいた。」など、幼児教育の理解促進につながる声をいただいている。



学校運営協議会での発表

＜園の意見でブラッシュアップ：周南市幼児教育・保育人材育成ガイドラインの改訂＞

「研修したいこと」についてアンケートを実施し、キャリアステージ別の職員のニーズを把握に努め、従前のガイドラインの改訂を図った。本ガイドラインが私立園にとっても参考になるよう、巡回訪問時で頂いた意見をもとに、ブラッシュアップを図った。

＜園の研修活性化にも：幼児教育サブアドバイザー育成の取組＞

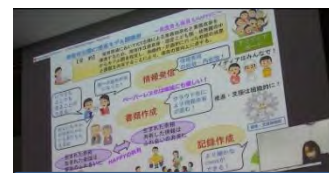
市内私立園・公立園に希望を諮り、中堅教諭 5 人を対象とした幼児教育サブアドバイザー研修を昨年度より期間 2 年間の研修として実施。研修の取り組み方や課題、成果を考え、学びを各園に持ちかえり園の研修の活性化にもつなげることができた。



サブアドバイザー研修風景

＜ICT 活用による働き方改革・保育の質向上へ～ICT 推進モデル園の取組支援＞

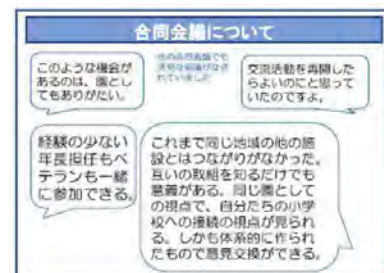
ICT を活用し、働き方改革が同時に保育の質向上につながっていくよう公立 1 園をモデル園に指定。成果発表を実施し、成果の共有化を図った。



ICT モデル園成果発表

＜実践的研究協議会の強力な支援：周南市幼保こ小の架け橋プログラム合同会議の本格実施にあたって＞

県内国公立大学及び市内の保育協会・幼稚園協会・小学校校長会・学校教育課等の委員で構成された「周南市幼保小の接続・連携による教育・保育充実のための実践的協議会」のご支援のお蔭により、施設類型や設置者の違いを越えて小学校区単位を原則として園・小学校がグループを作り、市内公立園 43 園と 27 小学校で円滑にスタートするとともに、今後の推進の在り方に意見をいただくことができた。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 福岡県北九州市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

昨年度幼児教育センターを開設し、市内の全幼稚園（公立4園、私立71園、幼稚園型認定こども園18園）への訪問を通して周知と幼稚園の実態把握に努めてきた。

本年度はニーズに応じた支援（園訪問、タ方オンライン講座等）を実施し、幼児教育水準の維持向上を図る。また、保幼小連携・接続事業や保育士等キャリアアップ研修等を通して、保育所（園）や小学校にも、支援や情報提供を行っている。

今後の課題は、保幼小連携・接続の取組のさらなる推進である。

【令和6年度における主な取組内容】

○幼児教育推進員・幼児教育アドバイザーの訪問や講師派遣による支援・助言

- ・教育内容を深める支援
- ・人材を育成する支援
- ・特別な配慮を要する幼児への対応力を身につける支援

○保幼小連携・接続事業に関する支援・助言（相談、訪問支援、研修会等）

○関係機関との連携を含めた域内全体の幼児教育の質向上を図るための体制づくり

○ホームページ及び「幼児教育センターだより」による情報発信

【取組内容の具体的な事例】

＜幼児教育推進員・幼児教育アドバイザーの訪問や講師派遣による支援・助言の様子＞

① 人材を育成する支援（タ方オンライン講座）

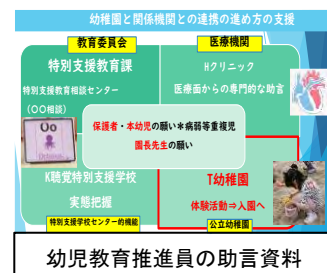
訪問や集合型研修の振返りで「集合型の研修に参加する時間を確保しにくい」、「気軽に参加できる研修の場や受講者同士で語り合える場が欲しい」等の意見があり、今年度より新たに「タ方オンライン講座」を実施した。大型画面を使って全員で参加していると事後アンケートで回答していた園があり、園内研修として取り入れていく可能性を広めることができた。また、小学校や特別支援学校の教諭も参加しており幼児教育への理解が少しずつ深まってきている。



タ方オンライン講座の様子

② 特別な配慮を必要とする幼児への対応力を身につける支援

幼児教育推進員が中心となり、園の依頼に応じて訪問や研修での支援・助言を行った。園から相談のあった重複障害を有する幼児への対応では、幼稚園と関係機関との連携の進め方を支援した。園からのニーズに合わせた情報を提供し、切れ目のない支援に向けたプラットフォームの役割を果たした。



幼児教育推進員の助言資料

<保幼小連携・接続事業の様子>

① 年度当初の協議会について

コロナ禍で連携が途絶えていた小学校区の校長先生から年度当初の打合せに同席してほしいと依頼があった。各施設に教育課程や行事計画を持参し、お互いの教育内容、学びや育ちを理解してから計画を立てるよう助言した。以降、途絶えていた連携が進んでいる。また、この機会を受けて校区内の幼児教育施設同士の交流も新たに始まった。



保幼小連携・接続事業の様子

② 保幼小連携研修会について

「令和6年度保幼小連携研修会（オンライン）」を実施し、「幼保小の架け橋プログラム」の説明及び小学校区版の「架け橋期のカリキュラム」の作成に向けたスケジュールを示すことで連携や接続の重要性を示した。また、子ども家庭局と連携して市内の幼児教育施設にも研修会への参加を呼びかけ、今後全市で取り組むべき共通の目標を共有することができた。

◇共催：教育委員会、子ども家庭局（こども施設企画課）

◇対象：市内幼児教育施設、小学校、特別支援学校の管理職及び連携担当者

◇講師：鳴門教育大学大学院 木下光二教授

<関係機関との連携を含めた域内全体の質向上を図るための体制づくりの様子>

教育委員会・私立幼稚園連盟・子ども家庭局の三者を中心とした「北九州市幼児教育連絡会議」を年2回（5月・1月）開催。北九州市立総合療育センター等の専門機関及び福岡県の幼児教育関係課等も交えて市全体の幼児教育推進に向けた情報共有、意見交換等を行い、今後の課題や方向性について共通理解をすることができた。

<情報発信の様子>

ホームページを開設し、センターの取組や研修の情報の周知を図るほか、「幼児教育センターだより」にてセンターの取組み事例や各園・校の好事例についての情報を発信した。それにより、「生命（いのち）の安全教育」に関する教材貸出依頼や後期の相談件数も増加し、情報発信の効果が見られた。

令和 6 年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：長崎県大村市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市では乳幼児教育のより一層の向上と充実を目指し、令和 5 年 4 月に「大村市幼児教育・保育支援センター」を開設し、幼児教育・保育アドバイザー 3 名を配置した。

「研究・研修」「園訪問」「情報発信」「連携・協働」、これらを相互に関連させながら公私施設類型を問わず、市内の幼児教育・保育施設への支援を中心に行っている。また幼保小連携推進を図るため、幼保小連携・接続連絡協議会を年 3 回開催している。

令和 6 年度新たに、専門的見地から助言を受けることを目的とし、「幼保小連携・接続」「医療、発達」「地域連携、障害福祉」の専門分野アドバイザー（3 名）を委嘱した。

【令和 6 年度における主な取組内容】

- 大村市幼保小連携・接続連絡協議会（架け橋期のカリキュラムの検討会議）の開催
- 「大村市教育・保育力向上研修会」の企画・実施（幼保小合同研修会、公開保育含む）及び園内研修支援
- 巡回訪問（特別な配慮を必要とする乳幼児の継続的な支援、教育・保育内容の指導助言）及び各種相談の実施
- 幼児教育アドバイザーの質向上の取組
 - ・長崎県主催「幼児教育アドバイザー育成研修」の受講（年 5 回）
 - ・「医療、発達」「地域連携、障害福祉」の専門分野アドバイザーの活用
- その他
 - ・公立幼保連携型認定こども園との共同研究
 - ・乳幼児期の教育及び保育に関する有益な情報の発信

【取組内容の具体的な事例】

＜大村市幼保小連携・接続連絡協議会（架け橋期のカリキュラムの検討会議）の様子＞

私立保育所、公立保育所、公立こども園、私立認定こども園、小学校、学校教育課担当指導主事、本支援センター長・幼保小担当者、専門分野アドバイザー 15 名で構成された協議会（検討会議）を年 3 回開催した。専門分野アドバイザー（長崎大学准教授）より、「架け橋プログラムについて」「架け橋期のカリキュラムの作成のねらいと意義について」の説明を受け、素案を基に、「大村市架け橋期のカリキュラムモデル」を作成した。また、それぞれの施設での交流活動（職員同士を含む）を報告し、学びのつながりについて考え合うことができた。



＜大村市教育・保育力向上研修会の様子＞

公私・施設類型の区別なく、今日的な課題や現場のニーズに応じた研修会を14回開催した。今年度も、「幼保小連携・接続」の合同研修会を本研修会に組み込み、施設長対象と職員対象の2本立てで実施した。幼保小連携推進を目的とした公立こども園の公開保育では、参観後、遊びの中の学びについて、シートを基に幼保小の職員がグループ協議を行った。また、長崎県幼児教育センター幼保小担当指導主事が「10の姿」を可視化し説明するなどして、幼児教育について共通理解を図ることができた。



＜園内研修支援の様子＞

園の要請に応じて、園の課題に応じた園内研修実施に向けての内容検討、外部講師（専門分野アドバイザーを含む）の紹介及び派遣、本支援センターの幼児教育アドバイザーによる講話などを行い8園を支援した。（教育・保育に関すること2園、特別支援教育に関すること3園、幼保小連携推進に関すること2園、不適切保育に関すること1園）園からは「自分のクラスをイメージして具体的な場面、支援の方法を考えることができた。」「背景にあるものを配慮しながら、対応できるようにしていきたい。」との声が聞かれるなど、全職員が園の課題解決に向けての手立てを共有するよい機会となった。



＜巡回訪問の様子＞

巡回スタッフ（幼児教育・保育アドバイザー、保健師、特別支援相談員）が園からの要請を受けて24園訪問。特別に配慮が必要な乳幼児に対する支援方法や、教育・保育内容に関することなど、施設職員に対して各専門的な視点から助言及び関係機関への紹介等を行った。また、訪問後のフォローを行い、園の課題を共有し各関係機関と連携・協働を図った。5歳児に関しては、学校教育課の幼保小連携担当指導主事（就学相談担当）とも連携を図りながら、保護者対応なども含めて、小学校への円滑な接続に向けて取り組んだ。



＜公立こども園との共同研究の様子＞

「子どもの学びと育ちをつなぐ架け橋をめざして」を研究テーマに掲げ、近隣の小学校、私立保育園とも連携を図り、縦だけではなく横のつながりも意識しながら互いの教育の相互理解を図った。幼児と児童の交流と併せて幼保小の職員同士の意見交換会を計画的に行う中で、互いに必要感をもって幼保小連携の取組を進められたことは大きな成果である。

①自分なりに考えようとする ②言葉で伝えようとする ③仲間を受け入れようとする ③協働してやり遂げようとする などの自発的な子どもの姿を視点として、小学校以降の教育とのつながりを見通しながら、環境や関わりを工夫していくことを共有することができた。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 沖縄県石垣市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市では幼小接続アドバイザーを配置し、教育委員会（学校教育課）とこども未来局（子育て支援課）が連携しながら幼児教育施設類型を超えた研修支援（幼児教育の質向上、幼小接続の推進）を行っている。市内10校区の幼児教育施設と小学校の職員が一緒になって、児童・幼児の姿を中心に対話を通して架け橋期のカリキュラムを作成し、幼児期の育ちと学びを小学校へつなぐ等、切れ目のない教育を目指し幼児教育及び小学校教育の充実に努める。

【令和6年度における主な取組内容】

③ 1年生スタート期の授業参観（4月）②1年生授業参観及び振り返り（5・6月）
③保幼小連携講演会（6月）④保幼小合同研修会（7月）⑤公開保育及び振り返り（8月）⑤市内5歳児在籍の幼児教育施設（23園）への巡回訪問（6月・9月）⑥保幼小管理職対象研修会（10月）⑦小学校教諭による保育者体験（8・2月）⑧幼児教育連携体制推進協議会（年3回）⑨石垣市架け橋プログラムサポートガイド発行⑩リーフレット「いしがきっこみんなでチャレンジ1年生」等配布

【取組内容の具体的な事例】

＜10校区における小学校1年生授業参観及び振り返り（意見交換）＞

・校区の幼児教育施設、小学校、行政の職員が参加。入学後の児童の実態を参観し、幼小の職員が同じ視点を持って協議することで、遊びを通じた育ちや学びがどのように小学校教育へ繋がっているのか共通理解を図った。



＜10校区内における公開保育及び振り返り＞

・10幼児教育施設が10ブロックに分かれ実施。参加者は小学校、行政の職員が参加し振り返り協議を行った。環境を通じた教育や遊びの中の学び等、育てたいこども像や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を視点に協議することで、園での活動が小学校教育にどのように繋がっていくのか共有できた。



＜市内5歳児保育施設への巡回訪問＞

・幼小接続アドバイザーと幼児教育担当が、市内5歳児が在籍している23園の保育所を訪問し、関係性の構築と各園の成果や課題等の実態把握に努めた。
また、事前に出された内容を基に、要領・指針に沿った視点で保育参観を実施。長期・短期指導計画から保育のあり方を協議し、他園の好事例の紹介等、保育内容・実践方法の一層の充実に努めることができた。

＜保幼こ小連携講演会の様子＞

- ・県内大学教授を講師に招聘し、保幼こ小の職員が一同に会して「幼保こ小接続で大切にしたいこと～適応論から子ども論へ～」等、具体的な事例を基に幼小接続についての理解を深めることが出来た。
- ・参加者からは小学校までに「できるようにしてこくこと」が接続なのか？教師自身がワクワクする授業づくりを意識していきたい。」など多くの感想が上がった。

＜保幼こ小合同研修会の様子＞全1年担任及び幼児教育施設職員が一堂に会した研修会ワークショップでは、校区内に分れ「10の姿」を視点に、保育場面（写真）から子どもの学びを見取り、保育者の援助や環境構成等について意見を出し合うことで、互いの価値観や教育観の違いに気付くきっかけとなった。

＜保幼こ小管理者対象研修会の様子＞

- ・公立小学校教員、校長を長年勤め、現在、石垣市幼児教育連携体制推進協議会長を講師に招聘し幼児教育と小学校教育の違いや架け橋期の発達の特徴、管理者に期待すること等についての講話を通して、幼小接続や早期支援、架け橋プログラム等への理解を深めることができた。



＜小学校教諭による保育者体験＞

- ・アプローチ期の幼児の興味・関心、遊びの中での発見や学び等、環境を通した保育のあり方等、（製作コーナー、絵本コーナー文字や数字への興味・関心を高める環境等）実際に体験することでスタートカリキュラムに生かすことが出来た。



1年生担任からは「給食配膳は、ここまでできるの？」や「折り紙の本を置いておくだけで保育園児もそこまで作れるだと驚きがあったので、私の教室に設置しよう」と考えた等、多くの感想があり接続へ向けた取組が期待される。

＜石垣市の発行について＞

- ・全5回開催した「石垣市架け橋期のカリキュラム開発会議」の意見を踏まえ、円滑な接続の推進及び架け橋プログラムへの取組の実現を図るため、これまで築いてきた保幼こ小の連携体制を基盤として、石垣市全体で架け橋プログラムの推進を図っていくことを目指し、本ガイドを作成。「本プログラム」は、カリキュラム作成がゴールではなく、その実効性を高めていくため、幼保こ小が架け橋期の教育や子どもの姿等を共に振り返り、教育の改善・充実につなげていくことが重要である。本プログラムを活用し石垣市の教育保育の質の向上を目指していく。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 沖縄県糸満市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市では、教育委員会（学校教育課）とこども未来部（保育こども園課）が連携しながら施設類型を超えた研修支援（幼小教育の接続、幼児教育の質の向上）を行っている。令和5年まで学校教育課に幼小接続アドバイザーが配置されていたが、令和6年度は人材確保ができず、配置なし。幼小へ助言や指導のできるアドバイザー等の確保が課題である。

【令和6年度における主な取組内容】

- 幼小連携支援事業（推進委員会、連絡協議会、合同研修会、校区交流会等）
- 幼児教育施設の巡回訪問（計画訪問・要請訪問）
- 保育実践及び研究を推進する研究園の指定
- 切れ目のない支援に繋げる特別支援に関する研修の実施
- 近隣6市町村との連携

【取組内容の具体的な事例】

＜幼小連絡協議会の様子＞

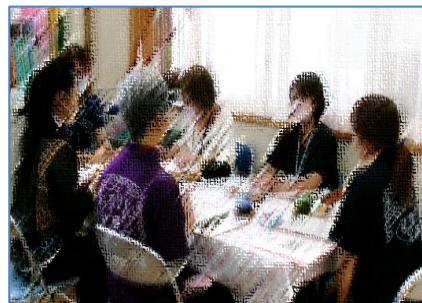
各小学校区（10校区）で、1年生授業参観、保育参観、協議会を実施した。参観後は具体的な子どもの姿を語り合いながら、幼小教育への学びの連続性について共有することができた。また、保育参観を小学校の校内研修とタイアップして行う校区もあり、全職員で幼小教育の相互理解を図る様子が見られた。



＜巡回訪問の様子＞

幼児教育施設との関係性構築や質の向上を図ることを目的に、施設類型を問わず市内幼児教育施設（5歳児在籍園）の計画訪問を行った。

今年度より、保育こども園課担当も同行し、両課で園の実態把握を行った。現場の声を聞くことで、園の良さや課題、研修ニーズを具体的に把握することができた。見えてきた課題は、研修計画に反映し改善に繋げるようにしている。



<研究指定園取組の様子>

市指定の研究園に研究を委託し、講師の指導や助言を仰ぎながら要領・指針に基づいた保育実践及び園内研修の充実を図った。

研究の成果は公開保育や報告会を通して、市内幼小関係者と共有した。参加者から「子どもの興味・関心、つぶやきから遊びへと繋がっていた」「トラブル発生時、みんなで話し合っている中に、学びが見えた」等の声が聞こえ、架け橋期の教育・保育について幼小で理解が深まった。



トラブルの際、集まって話し合いをしている様子

<特別支援に関する研修の実施>

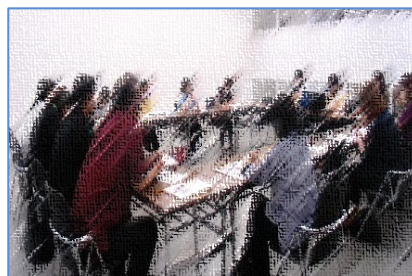
一貫した途切れのない支援へ繋げるため管理職の理解や役割が重要であることから、幼児教育施設長を対象に特別支援コーディネーターや心理師による就学支援説明を実施した。最新の特別支援・就学支援に関する内容を共有することができ、支援が必要な幼児への対応を充実させていくことに繋がった。



<近隣6市町村情報交換会の様子>

域内の幼小連携支援事業や幼児教育の質向上がより効果的に遂行できるように、「島尻はひとつ情報交換会」を年に2~3回実施している。近隣市町村の取組や進捗状況、好事例の紹介、課題などを共有し、効果的な取組を模索している。

また、他市町村で開催される研修会等に参加を希望し、研修内容や進め方を学び合うなど共に支え合う関係づくりが生まれている。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 沖縄県豊見城市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市の幼児教育施設は、私立幼稚園1園、幼保連携型認定こども園13園（公立：1、私立：12）、認可保育所18園、保育所型認定こども園3園、合計35園である。令和5年度に市の幼児教育の拠点となる「豊見城市幼児教育センター」を保育こども園課内に設置。令和4年度から継続的に幼児教育アドバイザーを配置しながら、市内の全就学前施設を対象とした園訪問や、各種研修会の企画・開催を通して、乳児及び幼児期における教育・保育の質向上を図る支援を行っている。

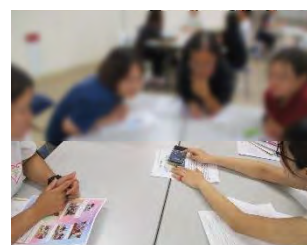
【令和6年度における主な取組内容】

- スタカリ期小学校訪問（4月）の実施。
- 架け橋期モデル校区公開授業（6月）・公開保育（7月）及び合同研修会、校区别合同研修会（2月）の企画・開催
- 幼児教育アドバイザー等による園訪問の実施（7月～12月）
- 保育ドキュメンテーション「往還型」研修会（8月・10月・11月）の企画・開催
- 架け橋期カリキュラム検討委員会の開催（3回／年 6月・12月・3月）

【取組内容の具体的な事例】

＜保育ドキュメンテーション「往還型」研修会の様子＞

市内全体の保育の質の向上を図ることを目的とし、理論と実践を繰り返す「往還型」研修会を実施した。保育ドキュメンテーションの作成及び、参加者同士が子どもの姿を中心とした語り合いを通して、「子ども」や「保育」に対する理解を深めることができた。



遊びの中の学びについて共通理解を図る参加者

＜スタートカリキュラム期小学校訪問の様子＞

新1年生が安心して学校生活を送り、自分から新しい人間関係を築いていけるよう、教室や多目的スペースに幼児期で親しんできた遊びや、コーナーを設置する等、環境構成の工夫も見られた。授業においても、体を動かした楽しい授業の展開やグループで学習課題に取り組む姿もあり、児童の発達の特性を生かした授業の工夫が見られた。



子供同士の関わりが自然と生まれる環境構成の工夫

＜校区别合同研修会の様子＞

従来の全体での合同研修会の形から、今年度は、小学校と就学前施設が縦の連携の充

実を図るため、各小学校区で合同研修会を実施した。
保幼小の職員が、次年度入学当初における環境構成や
援助の工夫等について共に意見を出し合う場を設けるこ
とができた。

<架け橋モデル校区公開授業及び公開保育の様子>

就学前施設と小学校が互いの教育について理解を深め、
架け橋期の教育の充実へとつなげていくため、授業を参
観したり、保育を参観したりする機会を意図的に設ける
ことができた。事後は、保幼小間で参観時の子供の姿
をもとに、小学校教育とのつながりや子どもの内面理解
を深めることへとつながった。



入学当初の環境構成等につ
いて意見を出し合う参加者



協同的な学びの場面を参観

<園訪問の様子>

平成31年から継続的に実施してい
る園訪問を通して、各就学前施設との
関係性（気軽に話し合える）の構築が
進みつつある。そのため今年度におい
ては、訪問園に対して助言や提案等
を行うこともでき、保育環境等につ
いて再度振り返るきっかけをつくるこ
とができた。



遊び込める環境を全職員
で考える



訪問園で見られた環境
構成の工夫

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：沖縄県南城市

① 質の向上について

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

○3要領・指針に基づいた保育の実施⇒福祉部局と連携し、施設類型を問わず市内全保育施設41園の保育支援訪問を実施し、保育参観及び保育の振り返りを通して子どもも保育者も共に主体的に活動することの必要性を伝える。○幼保小連携結節園が4地区のモデル園を目指す。5園研修会の継続と報告会を実施し相互に育ち合う機会を作る。

【令和6年度における主な取組内容】

○市内全保育施設の保育支援訪問を通して3要領・指針に基づいた保育の実施を促す。
○希望する園へ園内研修支援の実施(子ども主体、遊びこみ、要領・指針の解釈等)
○各地区結節園のモデル園を目指し5園研修会の実施。要請に応じて支援する。
○「3要領・指針の理解」研修会を園長・主任・保育者向け研修会を5回実施する。

【取組内容の具体的な事例】

※【令和6年度における主な取組内容】

＜市内全園保育施設保育支援訪問の様子＞ 保育参観：60分 振り返り：60分

- ・参観の視点：3要領・指針に基づいた保育の展開。
子どもと保育者の共主体、遊びこみ
- ・保育者主導から子ども主体の保育へと保育者の意識が徐々に変わってきた。行事の在り方を「子ども中心に」改善する園が見られるようになってきた。
- ・3要領・指針を指導計画作成等に活用するようになってきた。



＜園内研修支援の様子＞

- ・各園の課題や学びたい内容に応える。
- 例、「園内研修の進め方」「子どもの主体性を尊重する保育とは」「遊びこむための環境構成と援助のあり方」等。
- ・保育改善に前向きな園が徐々に増えてきた。



＜5園研修会 実践報告会の様子＞

各地区の結節園(公立こども園・公私連携型認定こども園・公立幼稚園)の質向上を目指す。5園統一テーマ「幼児が遊びこむための環境構成と援助のあり方」サブテーマは各園が設け園内研修で取り組む。2月に5園研修会 実践報告会を実施し、講師の指導助言を仰ぎ保育の質向上につなげた。5園以外の園や次期公開保育園が参加することで、保育改善への意識の輪が広がった。

《参加者の感想》 ワクワクする保育実践や保育者の援助の工夫、環境構成が参考になった。園児と共に環境を再構成することで継続した遊びに繋がっていきたい。

② 幼保小連携について

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

○南城市立全小学校対象に入学まもないスタート期 1 年生の授業参観を行った。午後には幼児教育施設の保育者とともに振返りを行い、対話を通して双方の保育・教育の理解を深めた。

○幼児教育施設 5 園の公開保育及び合同研修会を夏休みと秋に開催し、各校区の幼保小中の職員が参加することもあり、連携を深めた。

○幼児教育センターのシンポジウムと認可園園長会とタイアップし、秋田喜代美先生より講話をいただいた。

○教育部と福祉部局が常に連携を取り合いながら保育ドキュメンテーションや架け橋期カリキュラム研修会などの開催を通して、幼保小連携事業としての推進を行っている。

【令和 6 年度における主な取組内容】

- (1) 小学校 1 年生（スタート期）授業参観及び振り返り（意見交換）4/16～30
- (2) 公開授業及び合同研修会「知念小学校」5/17(金)
- (3) 公開保育及び合同研修会
- (4) 「スタートカリキュラム」の実践紹介 7/29(月) 小学校 1 年生担任
- (5) 南城市幼児教育センターシンポジウム及び教育講演会 9/7(土)
- (6) 保育ドキュメンテーション研修会 R7 年 1/28(火)～29(水)
- (7) 架け橋期カリキュラム研修会 1/29(水)

【取組内容の具体的な事例】

＜小学校 1 年生（スタート期）授業参観及び振り返り＞

参観は 3 つの視点を基に「のんびりタイム」と「なかよしタイム 1 校時」までとし、午後の振り返りでは子どもの姿を中心に幼児教育で培った育ちや学びを小学校教育へつなぐ語り合いとなった。

＜公開保育及び合同研修会＞

公開保育開催まで何度も園に足を運び、“子ども主体の保育”について保育者と一緒に考え進めていった。開催後 5 園から「大変だったが貴重な体験ができた」「行事や保育を見直す良い機会となった」「職員間で遊びを共有できた」などの感想が寄せられた。

＜幼児教育センターシンポジウム及び教育講演会＞

学習院大学 教授 秋田喜代美氏を迎え、「子どもたちの素敵な笑顔を中心に」～対話が子どもたちの育ちを支える～との演題で講話をいただき市内幼保小の職員が参加した。

＜保育ドキュメンテーション研修会＞

市内幼児教育施設 30 園が保育ドキュメンテーションの作成を通し子どもの育ちや学びを可視化し展示、参加した保育士は視点を基に学び取り、付箋紙に貼ってその園にフィードバックした。内覧者は小学校教諭や行政・一般市民など多岐に渡り、累計ではあるが全 238 名の参加を得た。

＜架け橋期カリキュラム研修会＞

「幼児教育の遊びは学び!! 小学校以降の深い学びへ」との南城市のテーマの基、園と小学校の先生が子どもの育ちを中心に捉え共に地域で子どもたちを支えるメンバーとして目指す子どもの姿を共有し、率直な語り合いが行われた。

令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」 主な取組内容概要

自治体名： 沖縄県金武町

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本町では、幼稚園・保育園・認定こども園の区分や設置主体の違いに関わらず、町内の子ども達が健やかに成長できるよう校種間の連携を図り、学びの基礎力を育むとともに保育者や教職員の資質向上を目的とした「学びの基礎力育成支援事業」を推進している。令和5年度金武町幼児教育センターを設立し、保育部局と教育委員会による連携体制が構築され、金武町保育者育成指標モデルを活用した研修や幼児教育リーフレットの作成など、保育者の育成と幼児教育の啓発活動を促進してきた。就学前施設や小学校訪問の充実を図り、円滑な接続の推進を図っていく。

【令和6年度における主な取組内容】

- 金武町保育者育成指標モデルを活用したキャリアステージ研修の実施
- 園児・児童・生徒の交流・体験活動の実施
- 保護者向け幼児教育リーフレットの検討、作成
- 保幼小中職員参加による夏季合同研修会の開催
- 幼小接続に関する県外視察研修の実施

【取組内容の具体的な事例】

＜キャリアステージ研修会の様子＞

金武町保育者育成指標モデルに示しているキャリアステージに応じた研修会を6月（採用期、基礎形成期保育者対象）と10月（実践力向上期保育者対象）に実施。子どもの姿を中心とした10の姿の読み取りや各園の実践紹介・協議等を通して、保育者同士が連携・協働し合い、資質能力の育成を図る取組を推進できた。



＜交流・体験活動の様子＞

保育者と教職員の相互理解や人と関わる力の育成を目指し、子ども同士の交流・体験活動を実施した。町内4歳児交流会（ミニミニ運動会）と5歳児交流会（チャレンジ・スポーツ大会）では、施設種を超えて保育者同士が連携し合いながら運営することができた。また、コロナ禍で中止となっていた給食試食体験会を計画し、配膳の仕方やマナーについて5年生に教えてもらいながら一緒に学校給食を頂くという機会を設けた。入学への期待、年下の子への思いやりや最上学年になる意識を高めていける活動となることができた。



＜幼児教育リーフレットの検討・作成の様子＞

幼児教育における学びの芽や幼児教育施設における園児の姿・保育者の関わりの様子について、保護者向けの幼児教育リーフレットを作成した。令和7年度に3歳から5歳児の保護者を対象に配布していく。



＜保幼こ小中夏季合同研修会の開催の様子＞

各校種の連携推進と相互理解を図るため、町内の保幼こ小中職員を対象とした夏季合同研修会を7月26日(金)に開催した。小中職員は悉皆研修に位置付けて多くの教職員が参加できるよう工夫し、また、公開保育は、園児・保育者の様子、関わり方を把握しやすいよう2園開催とした。保育参観後は子どもや保育者の姿、環境構成等から学びの芽について話し合いを行い、教育内容について語り合える有意義な研修となった。午後は「乳幼児期の学びをつなぐ」をテーマに沖縄キリスト教短期大学部長地域保育こども学科教授の照屋建太氏にご講演頂き、学びの連続性と育ちを保障していく大切さについて理解促進を図ることができた。



＜県外先進地域への視察研修の様子＞

令和6年7月3日から5日の3日間、小学校指導主事、幼児教育主事、中川幼稚園教諭、幼小中接続アドバイザーと町内小学校1学年担任、支援学級担任(2名)による県外先進地域視察研修を実施した。岡山県美作市と高梁市を訪問し、市内にある小学校・こども園の授業参観や保育参観と保こ幼接続の取組についての情報交換を行い、今後本町における幼児教育の充実と幼小接続の推進に向けて取組むべき方向性について考える貴重な機会となった。また、小学校職員と一緒に視察研修を実施することができ、各学校の取組状況の把握や関係者・関係機関との人と人との繋がりを作ることができた。



令和6年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 沖縄県伊江村

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

- ・ 沖縄県教育委員会 幼児教育班においてこれまでの伊江村保幼小中連携事業について発表を行う
- ・ 研修会の開催において特別支援教育に対する理解が深まった
- ・ 連携アドバイザーが保育現場の補充や方言指導に当たる機会が多々あり幼児の実態把握に繋がり保育の助言指導がスムーズに行える場面がある

【令和6年度における主な取組内容】

- ・ 幼小接続研修会の取り組み：幼小交流授業の公開保育・交流授業
- ・ 体験授業：幼稚園⇄小学校、保育所⇄中学校 ・ 保育所参観
- ・ 保幼小中連携合同研修会の開催（講演会、研究授業参観等）

【取組内容の具体的な事例】

※【令和6年度における主な取組内容】

＜第1回保幼小中合同研修会の様子＞

- ・ 「子どもを笑顔にする保育・教育～幼児教育の現場から」
- ・ 沖縄女子短期大学講師羽地知香氏の講演会に保育所、幼稚園、小規模保育園、小学校、中学校、管理職等の参加者72名。

- ①発達を知ること、
- ②子どもの発達や学童期の発達
- ③発達障害の発見、それぞれの障害の特性、
- ④育ちと環境と障害、
- ⑤遊びから育つ非認知能力



＜保育所見学の様子7月25日＞

- ・ 幼児児童生徒を見取る視点、情報リテラシー、保護者対応に関する研修を通して教職員の資質向上を図ることを目的に実施。保幼小中職員の資質向上の取り組みとなる。

